岩手大学教育学部研究年報　第39巻（1979）

岩手県における高等学校家庭科の戦後史（第3報）

―施設・設備，担当教員，現職教育―

清水　房*・工藤　澄子**・大森　輝***

（1979年7月6日受理）

はじめに

我々は岩手県における高等学校家庭科の戦後史を，つぎのような面から取り上げ調査し考察してきた。それは，学科の変遷（第1報）[1]であり，教育課程の変遷（第2報）[2]である。

本報文では，それ等の成立条件ともなり，時には規制条件ともなるであろう施設・設備，家庭科担当教員及び現職教育の変遷を取り上げることとする。

まず，施設・設備については，産業教育振興法（以下産振法と略述）の制定（昭和26年6月11日）を契機としての変遷を中心にして，国の基準に対する現有率の動きを追ってみる。国庫補助による政策が県段階の施策と呼応しながら教育現場に与えた影響力に着目する。

担当教員の変遷については，昭和28年，35年，41年，47年の各年度における学校ごとの配置状況を調査し，在籍女生徒数との関係や履修単位数との関係，更に年齢構成の実態も明らかにし，現状と問題を考察する。

現職教育の変遷については，教員の自己研修を援助する組織と機関―自主的研究団体としての岩手県高等学校家庭科教育協会，県教育委員会の外郭団体としての産業教育振興会，全国高等学校家庭部会等―について実績を明らかにする。昭和38年度岩手県立教育センター設置を境としての動向にも着目する。

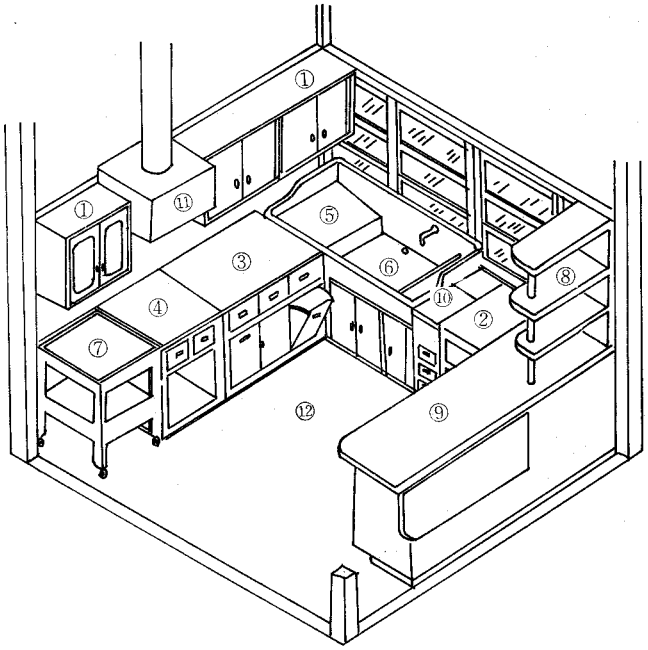
I. 施設・設備

1. 産振法制定までのあらまし

終戦直後の実態は，市部所在の歴史の古い旧制の中学校や高等女学校であったところは比較的充実しており，普通課程では盛岡高等学校（現在の盛岡第一，盛岡第二，盛岡商業），実業課程のうちでは柏高等学校（現在の盛岡農業）や和賀高等学校（現在の黒沢尻工業），盛岡高等学校加賀野校舎（現在の盛岡商業），三陸高等学校（現在の宮古水産）等である[3]。これに対して全日制課程の新設校及び定時制の高等学校（独立校，分校）は殆どみるべき内容設備がなく，授業運営にも支障を来たしていたもようである。これに対して県としても何とか手を打たなければならなかったが，災害復旧，6・3建築等緊急問題の山積する中で，どうにも具体的な施策が講ぜられなかったよ

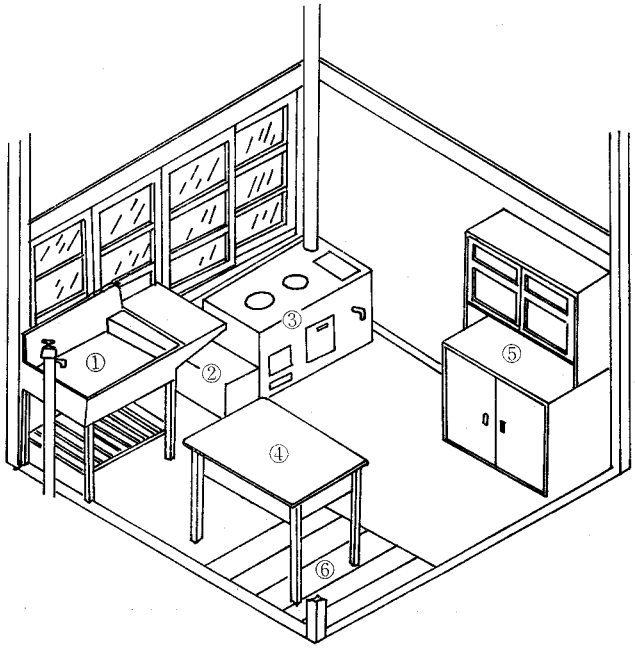
*　岩手大学教育学部
**　郡山女子大学
***　岩手県立盛岡短期大学

1)　岩手大学教育学部研究年報　第37巻（1977）
2)　岩手大学教育学部研究年報　第38巻（1978）



① つりだな
② 冷蔵庫
③ 調理台（下食品入）
④ コンロ台（下レンジ）
⑤ 水切り（タイル張）
⑥ 流し（タイル張）
⑦ 移動調理台
⑧ すかしだな
⑨ 食卓
⑩ 食器入れ
⑪ 換気孔
⑫ 床タイル張

図 I-1　ユニットキッチン（様式 1）



① 流し（調理台付）
② コンロ台
③ カマド
④ 食卓
⑤ 食器戸だな（調理台兼用）
⑥ オトシ

図 I-2　ユニットキッチン（様式 2）

うである。昭和24年6月30日現在の調査で県立高校生徒1人当たりの施設面積は7.4m²，私立のそれは6.0m²であった[3]。

ここで特筆すべきは文部省の指定によるホーム・プロジェクト実験学校の実態についてである。既報[2]において記述したように，昭和23年11月に文部省指定校（2年間）となった県立盛岡高等学校白梅校舎（現在の盛岡第二高等学校）に対して，指定に伴う施設経費として県では第1年度に135,000円，第2年度には218,500円を支給している。そうしておもにユニットキッチン（unit kitchin）の費用に充当されている。当時このユニットキッチンなるものをどのように受け止めたかについては，図I-1および2によって知ることができる[4]。この図にはつぎのような，たて書きの説明書が記されている。

ユニットキッチン説明書　岩手県立盛岡高等学校白梅校舎。

設置目標‥‥様式の異なる二つの台所を計画し，学校における実習を通じて家庭生活の改善に役立たせることを目標とした。計画にあたって特に研究した点。

（様式その1）

1.　衛生方面

1）　清潔；床⑫および流し⑥をタイル張とし，水分のあるものをそこに集めるようにした。また流しおよび水切台⑤のくふうをした。

2）　採光；東と南に光線をとった。明るい色彩をとり入れた。

3）　臭気・熱気抜；コンロ台の上に簡単な臭気・熱気抜を設けた。⑪

4）調理台③の下の扇形に開く引出しは取りはずしてそうじができるようにした。

2.　機能方面

1）　作業線の短縮；備品の配置に注意した。

2）　作業面の高さ；作業面の高さは床上85cmとし，現在生徒の平均身長者の臍高から3cm下とした。流し・調理台・コンロ台の高さを平らにした。

3）　労力の節約；いすの高さは普通のいすよりずっと高めにした。（床上57cm）立っている姿勢と余り変りなく，しかも楽な姿勢で仕事ができるように考えた。立った場合に足のはいる余地をじゅうぶんとった。つり戸棚を設けることによって比較的狭い場所の空間を利用してその下にある台をじゅうぶん広く使用しうるようにした。配膳台は車付とし食卓の側まで運べるようにし，なお食卓の狭い時は広く使えるようにした。

3.　美的方面

1）　色彩の調和；塗料の色彩・光沢という点に注意した。

2）　郷土色；食卓およびすかし棚・配膳台はこの地方で生産される漆を使用した。

3）　すかし棚；食器・花びん等をあしらって台所の装飾にする。隣室との軽い仕切とする。

4）　ガラス入つり戸棚；くだものその他を入れて室の装飾を兼ねる。

4.　その他

（様式その2）

1.　衛生方面

1）　清潔；流しには銅板を張った。

2）　採光；出窓にして光線を取り入れた。

2.　機能方面

1）　流しの構造：流しの横にまな板様の台をとりつけて調理台とし，取りはずして洗うことができるようにした。

2）　能率的な薪レンジの使用

3）　食器戸棚の構造；中間を利用して配膳台に使用する。下部に米びつ用の箱を取り出せるように設

3）　岩手県教育年報　昭和24年度版

4）　家庭科ホーム・プロジェクトの手びき　文部省 pp. 162～163. 説明書は同書 pp. 164-166.

備した。(そうじ可能)

4) 床下を利用して食品貯蔵に備えた。(周囲はコンクリート壁にした。)

このユニットキッチン2セットの設計から施工までの一切は，県立工業指導所に委託したものである。当時としては関係者からの評価が高く，文部省の手びき書[4]に掲載された為もあって見学者は引きも切らず訪れた。然し，アメリカで言うところのユニットキッチンとはおよそかけ離れた認識で把えられており，床面を一段と高くしてあたかも舞台装置のようにつくられていたため，実際面では種々問題が生じた。昭和32年度の改装工事（2度目の研究指定校）の際には様式 1 のみ残して他は除去され，新たに基本型3つ（直列・平行・L型）を設備した。昭和24年11月10日に行われた研究発表会の手引[5]から，当時の施設の概要を記せばつぎのとおりである。

1.	割烹室改造工事	21 坪	2.	食品庫	4 坪
3.	家事室	26 坪	4.	物干場	25 坪

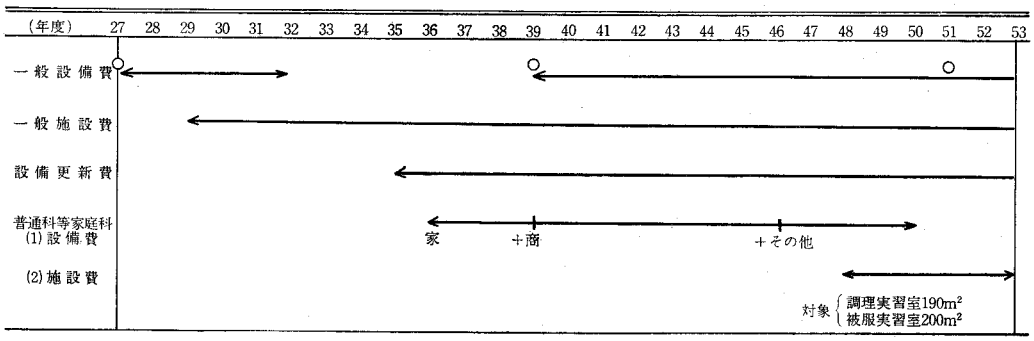
これを新基準（高等学校普通科等家庭科教育施設・設備基準；昭52.6.25文初職第289号）に照合しても，また，表 I-3 の現有面積と比較しても引けをとらない広さを有していたことがわかる。

2. 産振法制定後の施設・設備

昭和26年6月11日法律第218号をもって制定された産業教育振興法（Vocational Education Promotion law）の第2条に「(家庭科教育を含む)。」と規定され，家庭科も国庫補助の対象となったことは，家庭科教育史上特筆大書すべきことである。そのころ文部省事務官であられた故山本キク氏は，昭和31年4月号の家庭科教育（家政教育社発行の月刊誌）に，つぎのような一文を寄せている。

この法律制定の基礎工事は昭和25年秋から26年1月にかけてなされ，ちょうど筆者がアメリカ視察の留守中であったが，ゴール寸前に帰朝した。そうしてこの中に家庭科を包含することに難色が見えたが，熱心な岩崎校長，長安校長その他の方々，稲葉ナミ氏，仙波千代氏その他家庭科の先生方の努力奔走により，かろうじてゴールインしたものである。

表 I-1　産振補助金の経過



註) 1. 普通科等家庭科 (1) 設備費の「家」は普通科の家庭科，「＋商」は商業科の家庭科，「その他」は，農業・工業等の家庭科が対象となった時点を意味する。

2. ○印は基準改正時点を示す。

5) 岩手県教育委員会・岩手県立盛岡高等学校白梅校舎「高等学校家庭科ホーム・プロジェクト研究発表会の手引」(昭和24年11月10日)

表 I-2　産　振　施　設　（現有率の変遷）

学校名＼年度	(基準)	30～34	36～38	39～40	(基準)	41	42	43	44～48	50	(基準)	51	54.5.1	備考
沼宮内	348m²	—	52	52	555m²	33	33	33	33	33	1350m²	33	33	
平館	348	—	50	50	555	32	41	41	58	58	1350	24	20	
紫波	348	63	67	67	555	42	42	42	78	78	1350	33	32	
花巻農業	348	—	66	(66)	(555)	(41)	(41)	(41)	(57)	(57)	(1350)	(24)	(34)	S.39から生活科に移行
東和	348	—	56	56	555	36	51	51	51	—	—	—	—	S.49から募集停止
北上農業	348	—	63	(63)	(555)	(39)	(39)	(39)	(36)	(36)	(1350)	(15)	(32)	S.39から生活科に移行
黒沢尻工業	348	—	60	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	S.38から募集停止
水沢農業	348	70	73	(73)	(555)	(46)	(46)	(46)	(56)	(56)	(1350)	(23)	(23)	S.39から生活科に移行
岩谷堂	348	—	62	(62)	(555)	(39)	(39)	(39)	(100)	(100)	(1350)	(42)	(163)	S.38から岩谷堂農林
千厩	348	—	57	(57)	(555)	(36)	(36)	(36)	(34)	(34)	(1755)	(14)	(20)	S.38から千厩農業
広田水産	348	—	19	26	555	33	33	33	81	81	1350	34	33	
宮古	348	—	66	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	S.38から宮古商業
宮古商業	348	—	65	65	555	51	51	51	51	—	—	—	—	S.47から募集停止
宮古水産	348	—	50	50	555	31	31	15	64	96	1350	39	50	
大船渡農業	348	(30)	—	—	—	—	—	—	—	—	(1755)	—	(37)	S.40年独立
岩泉	348	—	33	33	555	57	57	57	52	52	1350	22	21	
久慈	348	33	67	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	S.38から募集停止久慈農林水産
久慈農林	348	—	67	67	555	42	42	42	42	42	1350	18	17	
一戸	348	—	60	83	555	52	52	52	60	60	1350	25	24	
久慈水産(食)	348	—	—	66	家 555 食 454	41	41	41	75	75	1350	31	53	S.45家政科1学級を食物科に切替える
宮古水産(食)	—	—	—	—	454	—	—	—	⟪64⟫	⟪96⟫	1350	27	50	S.47食物科新設
											(1350)	(34)	(60)	盛岡農業
											(1350)	(32)	(32)	江刺
											(1350)	(22)	(22)	一関農業
											(1350)	(6)	(54)	遠野農業

註 1)　⟪　⟫は家政科と共用の意
　　2)　(　)は生活科

当時本県における家庭に関する学科の設置状況は既報[6]に記したとおり私立3校に設置されているだけで公立高校には皆無である。農業高校には農村家庭科（現在の生活科）が2校に新設(S. 25. 4. 1.）されている。

つぎに産振法に基づく国庫補助金についての経過を示すと表 I-1 の通りである。

一般設備費；産振法施行令に定められている高等学校における産業教育のための実験実習施設・設備基準に掲げられている設備を整備するための経費で，昭和27年度産振法補助金発足当初から昭和32年度までの6ケ年間続けて計上され，33年度から38年度までは打ち切られ，また新基準のもとで39年度から整備計画が進められてきた。

一般施設費；一般設備費と同様基準に掲げられている施設を整備する為の経費で昭和29年度から現在まで引き続き計上されている。

設備更新費；実験実習用設備の更新を図るための経費で昭和35年度から引き続き計上されている。年度を区切って対象となる備品の調査をし，年次計画で更新される。

普通科等家庭科の施設・設備費；設備費については，昭和35年10月告示され，昭和38年度から実施の高等学校学習指導要領――普通科の女子に「家庭一般」4単位必修[7]――に対する裏付け予算として昭和36年度から，また施設費は，昭和48年度からそれぞれ普通科等に対して補助が行われている。

(1)　施　設

産振施設についての年次経過を示せば，表 I-2 のとおりである。昭和29年度から国庫補助の適用をうけて職業教育に関する学科を置く高等学校は急速に充実した。特に研究指定校になった学校を優先したため，昭和28年度指定の紫波高校に対しては 82.5 m^2 の補助があり現有率 38% から 63% に引き上げられた。また昭和30年度指定の水沢農業高校は歴史も古く現有面積もその時点で 60% に達していたため，40 m^2 で 10% 引き上げ 70% になっている。続いて年次計画で充実が進められ基準改正直前の昭和36年では県平均が 59% の現有率である。当初昭和27年4月1日調査の 47% からみて 12% の上昇で年平均 1.2% に相当する。

昭和36年2月23日付で文部大臣から中央産業教育審議会に対して「高等学校における産業教育実験・実習施設・設備の基準の改善について」諮問があり，昭和38年10月19日付でそれに対する答申がなされた。諮問の直後に文部省は昭和36年4月1日現在の調査を指定統計第47号で各都道府県教育委員会に依頼している。当時の調査票によれば，標題は「昭和36年度産業教育調査（施設設備調査）」となっており，記入要領の冒頭につぎのようにその主旨が記載されている。

この調査は高等学校における実験実習設備の保有状況を把握するとともに，高等学校教育課程の改正にともなう設備基準作成の資料とするものです。

つぎに家庭科関係特別教室の主なものについて昭和47年度と54年度とを対比してみたのが表 I-3 である。昭和54年5月1日調べの実数は県教育委員会事務局財務課保管の台帳図面から著者が算出した m^2 数である。また農業や水産高校等で共用している為か調理室という名称の教室が見当らず，実際に学校に問い合わせれば「ある」ということで入れた数字もある。この数値にもとづいて両年次の1校平均の面積を求めてみると被服実習室は 96.7 m^2（昭和47年）から 106.9 m^2 で 10.2 m^2 増。調理実習室は 102.9 m^2 から 121.3 m^2 で，18.4 m^2 の増となる。

6)　岩手大学教育学部研究年報　第37巻（1977）p. 31.
7)　註 2) の文献の p. 52.

表 I-3　高等学校家庭科一般施設（昭和47年と昭和54年比較）

学校名	被服室 m²		調理室 m²		その他 m₃		学校名	被服室 m²		調理室 m²		その他 m²	
盛岡第一	0	0	0	0	0	0	千厩	104	146	82	146	0	0
盛岡第二	117	122	186	186	0	0	千厩農業	—	241	—	153	0	80
盛岡第三	73	73	98	98	0	0	高田	150	138	109	109	0	0
盛岡第四	178	178	130	130	0	0	広田水産	91	179	91	149	0	113
盛岡北	—	175	—	175	0	0	大船渡	91	91	91	91	0	0
杜陵	82	82	232	191	0	0	大船渡農業	147	99	147	99	0	0
盛岡農業	165	165	149	149	145	145	大船渡工業	0	0	0	0	0	0
盛岡工業	0	0	0	0	0	0	住田	115	0	129	180	0	0
盛岡商業	135	101	101	101	0	0	釜石南	107	108	134	136	34	0
沼宮内	83	179	99	180	0	86	釜石北	132	99	99	99	0	0
葛巻	0	126	101	119	26	0	釜石工業	0	0	0	0	0	0
平館	146	99	99	119	25	0	釜石商業	131	131	114	114	0	0
雫石	116	101	110	92	0	0	遠野	189	116	99	139	0	0
紫波	165	165	185	185	0	0	（宮守）	83	94	0	63	0	0
花巻北	0	175	0	175	0	0	遠野農業	0	0	0	87	87	0
花巻南	154	153	126	126	0	0	大槌	79	0	58	58	0	0
花巻農業	165	165	160	160	132	132	山田	102	84	65	60	0	0
花北商業	0	0	83	83	0	0	宮古	112	164	105	164	0	62
大迫	133	126	133	126	0	0	（川井）	0	0	41	66	0	0
黒沢尻北	99	72	99	0	0	0	宮古北	0	0	56	0	0	0
黒沢尻南	164	154	115	154	0	0	宮古工業	0	0	0	0	0	0
北上農業	102	145	99	99	0	0	宮古商業	138	128	142	142	0	0
黒沢尻工業	0	0	0	0	0	0	宮古水産	180	180	176	176	0	0
東和	80	80	120	105	80	0	岩泉	132	129	157	156	0	0
西和賀	83	83	83	60	0	0	（小川）	—	0	—	150	—	0
水沢	142	164	103	205	0	0	（田野畑）	0	0	96	116	0	0
水沢農業	152	145	152	145	0	0	久慈	84	0	159	159	0	0
水沢商業	124	135	135	135	0	0	（山形）	0	93	0	124	0	0
前沢	80	80	74	74	0	0	（長内）	—	0	—	125	0	0
金ケ崎	81	120	103	103	0	0	久慈農林	117	117	116	116	0	0
胆沢	59	144	0	144	0	0	久慈水産	177	231	240	231	0	110
岩谷堂	131	158	140	158	0	0	種市	102	102	145	255	0	0
岩谷堂農林	157	133	231	133	165	165	大野	0	161	112	161	0	0
江刺	145	145	145	145	145	145	軽米	164	99	164	177	0	0
一関第一	81	82	123	131	0	0	伊保内	0	162	84	162	0	0
一関第二	166	155	183	169	0	0	福岡	152	135	101	113	0	0
一関農業	150	131	150	131	0	0	福岡工業	0	0	0	0	0	0
花泉	147	150	147	150	0	0	浄法寺	0	165	86	165	0	0
大東	178	167	130	167	0	0	一戸	165	162	124	185	0	0
大原商業	50	176	51	176	0	0	盛岡市立	177	152	171	171	0	32
藤沢	132	151	79	151	0	0							

註 1)　左側 S. 47 年値，右側 S. 54 年値
2)　S. 47 年値は「家庭科教育の現況と課題」大森著 pp. 22～23 による。（昭和 47. 5. 1. 調）
3)　S. 54 年値は県の財務課調べによる。（昭和 54. 5. 1. 調）
4)　小数点以下 4 捨 5 入

表 I-4 産 振 設 備 (現有率の変遷)

学校名	基準	S.27	28	29	30	31	32	36	37	学科名	基準	S.40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	基準	S.51
	(千円)								(%)		(千円)											(%)	(千円)	(%)
沼宮内	1691	—	—	—	—	—	—	—	45	家政科	6389	17	32	50	50	50	53	53	53	53	53	53	35,698	36
平館	〃	—	—	—	—	—	—	—	45	家政科	〃	26	36	36	61	72	72	72	72	72	73	73	〃	18
紫波	〃	29	51	58	69	69	69	64	64	家政科	〃	28	37	37	37	37	19	67	67	67	67	67	〃	16
花巻農	〃	—	12	12	46	46	46	58	58	(生活科へ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東和	〃	—	—	—	—	—	—	—	45	家政科	〃	37	37	37	58	56	55	62	73	73	73	(募集停止)	—	—
北上農	〃	—	—	37	58	58	58	61	61	(生活科へ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
黒沢尻工	〃	18	17	17	50	50	50	50	50	(募集停止)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水沢農	〃	—	45	45	80	89	89	89	89	(生沢科へ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岩谷堂	〃	25	25	41	58	58	58	58	58	(生活科へ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
千厩	〃	24	24	44	64	64	64	64	64	(生活科へ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
広田水	〃	—	—	17	17	35	55	55	55	家政科	〃	28	28	58	48	48	55	62	78	78	79	79	〃	20
宮古	〃	38	40	40	69	69	69	69	69	(募集停止)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮古商業	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	家政科	〃	26	39	42	42	42	42	0	(募集停止)	—	—	—	—	—
宮古水産	〃	21	21	18	18	36	54	54	54	家政科	〃	32	32	42	47	48	55	66	80	83	84	90	〃	家食 30
盛	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	(生活科へ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岩泉	〃	—	—	—	—	—	—	—	45	家政科	〃	23	23	41	42	42	42	43	43	43	43	44	〃	13
久慈	〃	—	20	20	20	43	53	53	53	(募集停止)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
久慈農林	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	家政科	〃	41	41	48	41	41	38	41	86	37	31	37	〃	17
一戸	〃	21	21	36	60	60	60	60	60	家政科	〃	33	47	48	61	61	59	70	69	69	69	69	〃	19
久慈水産	—	—	—	—	—	—	—	—	—	食物科	6394	—	—	—	—	—	—	71	92	92	43	50	〃	家食 26
宮古水産	—	—	—	—	—	—	—	—	—	食物科	〃	—	—	—	—	—	—	—	29	26	26	30	〃	—
									(%)													(%)		(%)
県平均現有率		25	28	32	51	56	60	61	58	県平均現有率		27	35	41	49	50	48	56	64	61	56	59		33

その他としては家庭経営・保育実習室であるが，これを保有している学校は82校中僅か10校という実態で，今後の充実が望まれる。また図面に当たって調べている間に特別教室の配置をいくつかの型に分けることができることに気付いた。即ち，① 直列型（被服室—準備室—調理室—その他）② 上下型（1階に調理室，2階に被服室，3階その他）③ 両端型（1階の端に調理室，2階の反対の端に被服室）である。①の代表校は花巻農業，岩谷堂，黒沢尻南，山田，千厩等，②の型は大迫，水沢農業，前沢，胆沢，一関農業，藤沢，広田水産，大船渡農業等で最も多い。③の型は悪い例なので学校名はあげないが数校において見受けられ改善が望まれる。準備室を2部屋保有している学校も数校あり新設校に多く見受けられ進歩のあとがうかがえる。

(2) 設　備

ア　一般設備；産振法による国庫補助金制度発足の昭和27年度から51年度までの現有率の変遷を一覧にしたのが表I-4である。

昭和27年度当初の国の基準は1691千円で本県の平均現有率は27.9%（昭和27年4月1日県教委調査）で，32年度一旦補助が打ち切られた時点での県平均現有率は60.5%となっている。6年間の伸び率32.6%で年平均5.5%の上昇を示している。その後昭和39年度からの基準改正で6389千円となり40年度の県平均現有率が，27.4%と下がり，その後10年間で31.9%の上昇。年平均約3%の伸びに止まっている。また，昭和51年12月には，理科教育及び産業教育審議会の建議「高等学校における産業教育のための実験実習の施設及び設備の基準改訂について」を受けて大巾な基準改正が行われ，家庭科の設備基準は前回改正時の3.8倍を大きく上回って4.6倍の7,698千円となり，表I-4の昭和51年度欄のような各校の現有率となっている。

イ　普通科等家庭科の設備；産振一般設備が打切られた間を縫って普通課程の家庭科を対象にした設備助成が実施されたことは機を得て幸いであった。当時本県では高校女子生徒総数の約75%が普通課程に学ぶという実態であったから（全国的傾向とも一致），法の適用に対する矛盾をつき，全国家庭科教育協会の組織をあげて運動を展開して実現をみたのである。当時の本県の実態を裏付ける資料として，県議会に向けて作製した質問予想事項と答弁要旨をつぎに記す。

質問予想事項‥‥「家庭科教育の振興について。」

答弁要旨‥‥高等学校の家庭科教育については全国的な問題として，女子の職業教育振興の立場からその体質改善を取り上げることとなっている。（中略）また普通課程の家庭科は38年度から女子の一般教養として「家庭一般」4単位が必修となり，更にその他選択科目を履修させる学校に対しては設備費国庫補助金が交付されることとなった。昭和36年度は本県に対して8校[8]の割当てがあり，1校30万円で総額240万円の充実がなされた。これによって35年度現有率29.5%から35%に引き上げられる。なお，この補助金は，37年度[9]も今年度と同様国で30,000千円予算化している。

つぎに基準改正（39年）後の設備充実状況を昭和40，43，47の各年度について示したのが，表I-5および6である。表I-6は各年度ごとに全体と本校・分校別に平均値と標準偏差値を求めてみた結果である。県は教育基本計画[10]で基準の70%を整備することを目標にその充実をはかっていると述べているから，その一般設備充実目標に照らしてみると全体で53%，本校は

8) 平館，花巻南，高田，黒沢尻南，一関第二，摺沢，大槌，山田の各高校（岩手県教育年報36年度版）
9) 盛岡第二，水沢，花泉，久慈，大迫，岩谷堂，釜石，福岡が補助の対象になっている。（前掲37年度版）
10) 岩手県教育委員会　教育基本計画，昭和43.3.31発行．p.205.

表 I-5 一　般　設　備

学業名	単位	基準	40年度(%)	43年度(%)	47年度(%)	学校各	単位	基準	40年度(%)	43年度(%)	47年度(%)
盛岡第一	4～9	3,026,200	4.6	4.6	9.0	(猿沢)	4～9	3,026,200	2.2	2.2	—
(雫石)	〃	〃	19.3	独46.6	64.2	(松川)	〃	〃	18.4	—	—
(好摩)	18～	3,973,200	2.4	2.4	3.2	千厩	〃	〃	9.1	3.2	24.9
(一本木)	4～9	3,026,200	—	—	—	藤沢	〃	〃	46.1	51.1	61.0
盛岡第二	〃	〃	71.8	71.9	67.6	高田	〃	〃	61.6	61.1	77.5
盛岡第三	〃	〃	45.7	45.7	63.3	(住田)	〃	〃	38.8	42.0	独73.6
盛岡第四	〃	〃	54.5	66.4	68.1	(世田米)	〃	〃	—	—	—
杜陵	〃	〃	21.4	21.4	55.4	大船渡	〃	〃	61.5	54.0	60.7
沼宮内	〃	〃	2.0	2.0	—	釜石北	〃	〃	67.0	67.0	73.3
(葛巻)	10～17	3,530,700	12.3	28.8	独53.5	釜石南	〃	〃	73.5	60.5	66.2
平館	4～9	3,026,200	—	—	—	(唐丹)	〃	〃	14.6	19.6	—
紫波	〃	〃	—	—	—	遠野	〃	〃	6.1	30.6	80.1
花巻北	〃	〃	5.6	1.5	14.9	(宮守)	10～17	3,530,700	8.3	16.8	48.4
花巻南	10～17	3,530,700	48.8	48.4	68.5	大槌	4～9	3,026,200	56.6	67.3	67.3
(湯口)	〃	〃	28.2	28.2	—	山田	10～17	3,530,700	49.4	58.2	76.0
大迫	4～9	3,026,200	52.2	63.2	62.9	宮古	4～9	3,026,200	56.4	63.3	71.5
東和	〃	〃	—	0	—	(田老)	18～	3,973,200	6.8	10.6	27.2
黒沢尻北	2～3	〃	5.7	21.8	70.9	(川井)	〃	〃	10.4	21.6	25.3
黒沢尻南	10～17	3,530,700	37.3	57.3	77.6	(刈屋)	10～17	3,530,700	7.1	7.1	—
(口内)	18～	3,973,200	3.3	0	—	岩泉	4～9	3,026,200	50.4	50.4	4.7
(和賀)	〃	〃	4.7	4.7	独65.5	(小本)	〃	〃	6.0	25.5	32.2
(川尻)	〃	〃	27.7	27.7	—	(小川)	〃	〃	7.6	7.6	7.0
水沢	10～17	3,530,700	38.5	53.9	62.9	(田野畑)	10～17	3,530,700	10.1	39.6	39.6
(金ケ崎)	〃	〃	29.7	独40.0	独68.6	久慈	4～9	3,026,200	56.1	100.0	54.7
(胆沢)	〃	〃	4.2	28.0	66.7	(種市)	〃	〃	8.0	58.8	独62.6
前沢	4～9	3,026,200	49.3	61.0	66.1	(大野)	〃	〃	7.6	7.6	59.4
(衣川)	10～17	3,530,700	24.4	24.4	17.1	(山形)	〃	〃	5.8	—	5.6
岩谷堂	4～9	3,026,200	28.0	53.3	53.3	(野田)	〃	〃	18.0	18.0	独31.2
一関第一	2～3	〃	7.9	22.6	68.6	軽米	〃	〃	42.7	54.0	66.0
(舞川)	4～9	〃	3.3	0	—	福岡	〃	〃	71.3	70.9	72.6
一関第二	〃	〃	52.9	67.2	69.6	(浄法寺)	10～17	3,530,700	5.7	16.7	19.0
花泉	〃	〃	47.4	46.2	72.1	(伊保内)	4～9	3,026,200	35.6	35.8	51.9
大東	10～17	3,530,700	54.0	49.8	60.6	一戸	〃	〃	—	—	—
(興田)	〃	〃	10.5	—	—	盛岡市立	〃	〃	62.6	62.6	62.6

注　独は独立校。(　) 内は分校名。

表 I-6 一般設備の集計結果

年度	40年度			43年度			47年度		
分類＼代表値	n	$\bar{x}$	S.D.	n	$\bar{x}$	S.D.	n	$\bar{x}$	S.D.
全体	62	28.69	22.92	60	36.22	24.60	52	52.92	22.78
本校	33	42.36	22.23	36	47.20	23.68	38	60.13	18.60
(分校)	29	13.14	10.43	24	19.73	15.02	14	33.34	22.01

目標値に近い60%，分校は昭和54年度までにかなり整理統合されているので参考にはならないが，47年度時点では僅か33%という実態であった。こゝで注目したいのはSD値で，本校で特に顕著な傾向として各校間の格差が縮少する方向で施策が行われて来たことがわかる。

ウ　その他；特別設備費や設備更新費の項目についても，研究指定校等鋭意努力をして実績を上げている学校に対して優先的に国庫補助配分がなされ，研究推進に大いに貢献していることがわかる。

II. 担当教員

(調査方法)

今回の調査において困難だった点は，昭和20年代，30年代の家庭科教員名簿が得られないことであった。資料としては「学事関係職員録」岩手教育会館刊を中心にしながら，当時勤務していた当該校の教員に電話その他の聞き取り調査を行い，女子教員名簿の中から家庭科教員を聞き出す方法をとった。しかし「学事関係職員録」には年度分の学校全部の掲載がなかったりなどして不明なところがあり，さらに関係諸方面に問いあわせをして補完につとめたが，それでも脱落があるやも知れず，研究としては不充分な点があることをまずもっておわびしたい。又私立学校においては先に述べた学校毎の記載漏れが多く，調査は困難をきわめたので，今回の研究からやむを得ず割愛した。

1. 担当教員数と各学校の配置状況

表II-1～表II～4[11]は公立高等学校の生徒数と教員数を学校毎一覧表にしたものである。この表を作成する目的は女子生徒数と女子教員数，その中の家庭科教員数を年代毎に明らかにし，その変遷を知ることにあるので女子生徒のみを学科別に構成し，男子生徒は一括した。昭和28年度，35年度，41年度，47年度，53年度と区分したのは連続して毎年度の資料収集が容易でないので，せめて ① 6～7年毎にその変容を知ることと，② 教育課程の改訂のあった後の実施年度においてどのような変容があるかを知るためである。

(1)　昭和28年度

昭和23年4月から新制高等学校が発足し，当時[12] CIEの強力な指導のもとに高校三原則いわゆる一綜合制一男女共学一小学区制一でスタートした岩手県の各高等学校の様子がこの表を通して理解することができる。即ち，農業高校，工業高校に普通科や家庭科が設置され，またひとつの学校に普通科，商業科等2つ以上の学科が設置されている。高校進学率は男子[13] 44.7%，女子34.2%と中学校卒業者の半数に満たず，進学者のうち働きながら学ぶ定時制の生徒が全体の25.5%（男子29.1%，女子19.4%）を占める等定時制全盛時代であった。特に交通不便な地域に点在する分校の果たす役割は大きく各校それぞれ特徴ある運営がなされていた。

家庭科教員の配置状況は全日制本校においては100%であり（釜石工業は男子のみのため除く）

---

11)「教育年報」岩手県教育委員会　昭和28, 35, 41, 48各年度版をもとに構成。
昭和28, 35各年度の家庭科教員数は「岩手県家事関係職員録」をもとにして作成。
昭和41, 47各年度の家庭科教員数は「岩手県高等学校家庭科教育協会」会員名簿による。
昭和53, 54各年度の家庭科教員数は「岩手県高等学校教育研究会家庭部会」会員名簿による。

12) 岩手大学教育学部研究年報　第38巻（1978）pp. 23～24.

13) 岩手大学教育学部研究年報　第37巻（1977）p. 48.

表 II-1　昭和28年度　生徒数と教員数 (1)

番号	学校名	全日制 女子生徒数 普	農	工	商	水	家	計	男子生徒数 計	合計	定時制・通信制 女子生徒数 普	職業	計	男子生徒数 計	合計	教員数（本務） 男	女	計	家庭科(再掲)
1	盛岡第一	148	—	—	—	—	—	148	804	952						32	2	34	1
	定時制中心										42	—	42	265	307	11	1	12	0
	(雫　石)										52	—	52	137	189	4	2	6	2
	(好　摩)										54	—	54	50	104	3	1	4	1
2	盛岡第二	628	—	—	—	—	—	628	170	798						28	10	38	2＋1指主
3	盛岡商業	7	—	—	141	—	—	148	658	806						28	2	30	2
4	盛岡農業	29	10	—	—	—	—	39	645	684						37	1	38	1
	定時制農業										—	21	21	102	123	9	2	11	1
	(青　山)											8	8	75	83	4	—	4	1
	(不　動)											43	43	52	95	2	1	3	1
	(乙　部)											14	14	50	64	2	1	3	1
5	盛岡工業	64	—	2	—	—	—	66	625	691						41	2	43	2
6	杜　陵										57	—	57	350	407	15	1	16	1
7	沼宮内	85	—	—	—	—	—	85	140	225	13	—	13	30	43	12	4	16	4
	定時制中心															4	1	5	1
	(葛　巻)										23	—	23	26	49	3	1	4	1
8	平　館	80	—	—	—	—	—	80	175	255						11	4	15	3
	定時制中心										—	—	—	16	16	3	0	3	0
9	日　詰	157	—	—	—	—	91	248	277	525						20	4	24	3
	定時制中心										1	—	1	43	44	2	2	4	0
	(志　和)										14	—	14	33	47	4	0	4	0
10	花巻北	152	—	—	9	—	—	161	549	710						27	1	28	1
11	花巻南	481	—	—	—	—	—	481	92	573						17	8	25	3
	定時制中心										35	—	35	160	195	12	2	14	2
	(湯　口)										29	—	29	51	80	2	0	2	0
12	花巻農業	67	6	—	—	—	45	118	284	402						20	2	22	2
	(笹　間)										—	13	13	54	67	2	1	3	1
13	大　迫	61	—	—	—	—	—	61	119	180						13	2	15	2
	定時制中心										3	—	3	17	20	—	—	—	—
14	黒沢尻	468	—	—	—	—	89	557	715	1272						42	10	52	4
	定時制中心										26	—	26	123	149	8	1	9	0
	(川　尻)										35	—	35	79	114	3	2	5	1
	(横川目)										14	—	14	55	69	4	0	4	0
	(沢　内)										43	—	43	73	116	4	2	6	1
	(口　内)										47	—	47	77	124	4	1	5	1
	(更　木)										38	—	38	50	88	3	1	4	1
15	黒沢尻工業	—	—	—	—	—	109	109	670	779	—		—			44	3	47	2
	定時制中心										—		—	250	250	13	0	13	0
16	土　沢	79	—	—	—	—	—	79	189	268						12	2	14	2
	定時制中心										46	—	46	45	91	1	3	4	1
17	水　沢	442	—	—	88	—	—	530	690	1220						39	9	48	4

表 II-1　昭和28年度　生徒数と教員数 (2)

番号	学校名	全日制 女子生徒数 普	農	工	商	水	家	計	男子生徒数 計	合計	定時制・通信制 女子生徒数 普	職業	計	男子生徒数 計	合計	教員数（本務） 男	女	計	家庭科(再掲)
	定時制中心										16	—	16	97	113	8	1	9	1
	(金ケ崎)										1	—	1	87	88	4	0	4	0
	(南都田)										7	—	7	96	103	5	0	5	0
	(若　柳)										28	—	28	81	109	4	1	5	1
	(黒　石)										26	—	26	69	95	3	0	3	0
18	水沢農業	—	—	—	—	—	250	250	415	665						28	5	33	4
	定時制農業										16	—	16	71	87	1	1	2	0
19	前　沢	162	—	—	—	—	—	162	143	305						14	2	16	2
	定時制中心										2	—	2	65	67	4	0	4	0
	(衣　川)										38	—	38	59	97	4	1	5	1
20	岩谷堂	291	—	—	—	—	125	416	552	968						37	6	43	4
	定時制中心										4	—	4	52	56	4	1	5	1
	(玉　里)										32	—	32	108	140	3	2	5	2
	(広　瀬)										52	—	52	60	112	4	1	5	1
	(稲　瀬)										35	—	35	61	96	4	2	6	1
	(梁　川)										40	—	40	69	109	5	1	6	1
	(伊　手)										31	—	31	63	94	3	1	4	1
21	一関第一	196	—	—	51	—	—	247	693	940						26	3	29	1
	定時制中心										16	—	16	252	268	10	0	10	0
	(舞　川)										23	—	23	67	90	3	1	4	0
	(真　滝)										22	—	22	45	67	3	2	5	1
	(厳　美)										14	—	14	44	58	2	1	3	0
22	一関第二	471	28	—	—	—	—	499	484	983						30	7	37	3
23	花　泉	147	—	—	—	—	—	147	160	307						12	3	15	2
24	摺　沢	240	—	—	—	—	—	240	235	475						17	3	20	3
	定時制中心										7	—	7	92	99	10	1	11	1
	(大　原)										109	—	109	82	191	2	3	5	3
	(興　田)										65	—	65	56	121	2	1	3	1
	(松　川)										29	—	29	42	71	2	1	3	1
	(猿　沢)										25	—	25	54	79	2	1	3	1
25	千　厩	222	—	—	—	—	135	357	480	837						30	6	36	4
	定時制中心										40	—	40	48	88	3	2	5	2
	(薄　衣)										36	—	36	41	77	4	2	6	2
26	藤　沢										115	—	115	149	264	9	4	13	3
27	広田水産	23	—	—	—	—	61	84	174	258						20	2	22	2
	定時制中心										24	—	24	0	24	1	2	3	2
28	高　田	349	—	—	—	—	—	349	247	596						19	7	26	3
	定時制中心										9	—	9	75	84	5	0	5	0
	(世田米)										34	—	34	40	74	2	2	4	2
29	盛	111	100	—	—	—	—	211	351	562						22	4	26	2
	定時制中心										3	—	3	86	89	5	0	5	0
	(上有住)										17	—	17	68	85	5	1	6	1
	(越喜来)										45	—	45	41	86	4	1	5	1
	(日頃市)										15	—	15	14	29	1	2	3	1

表 II-1　昭和28年度　生徒数と教員数 (3)

番号	学校名	全日制 女子生徒数 普	農	工	商	水	家	計	男子生徒数 計	合計	定時制・通信制 女子生徒数 普	職業	計	男子生徒数 計	合計	教員数（本務） 男	女	計	家庭科(再掲)
30	釜石	322	—	—	—	—	—	322	597	919						29	6	35	4
	定時制中心										38	—	38	292	330	12	5	17	3
	(唐丹)										30	—	30	23	53	2	1	3	1
	(鵜住居)										59	—	59	54	113	1	1	2	0
31	釜石工業	—	—	—	—	—	—		328	328						24	0	24	0
32	釜石商業	—	—	—	119	—	—	119	233	352						10	4	14	1
33	遠野	283	—	—	—	—	—	283	372	655						26	3	29	2
	定時制中心										13	—	13	55	68	4	0	4	0
	(鱒沢)										24	—	24	46	70	5	1	6	1
	(土渕)										33	—	33	24	57	3	1	4	1
	(宮守)										24	—	24	38	62	3	2	5	1
34	大槌	127	—	—	—	—	—	127	79	206						11	2	13	2
	定時制中心										14	—	14	50	64	4	1	5	1
35	山田	143	—	—	—	—	—	143	135	278						12	3	15	3
	定時制中心										44	—	44	59	103	3	2	5	2
36	宮古	367	—	—	133	—	40	540	499	1039						35	8	43	5
	定時制中心										19	—	19	95	114	6	2	8	2
	(川井)										23	—	23	41	64	3	1	4	1
	(田老)										19	—	19	40	59	3	1	4	1
	(田老鉱山)										12	—	12	32	44	4	1	5	1
	(刈屋)										38	—	38	31	69	4	1	5	1
37	宮古水産	54	—	—	—	—	89	143	410	553	—					27	5	32	4
	定時制漁業											7	7	36	43	2	0	2	0
38	岩泉	65	17	—	—	—	—	82	130	212						11	4	15	3
	定時制中心										4	—	4	21	25	2	0	2	0
	(小川)										11	—	11	34	45	2	1	3	1
	(田野畑)										6	—	6	25	31	2	0	2	0
39	久慈	144	—	—	—	—	80	224	473	697						34	5	39	4
	定時制中心										5	—	5	23	28	4	0	4	0
	(種市)										14	—	14	58	72	3	0	3	0
	(大野)										14	—	14	15	29	1	1	2	1
	(山形)										31	—	31	5	36	1	2	3	2
	(野田)										40	—	40	11	51	3	0	3	0
40	軽米										57	—	57	69	126	10	3	13	2
41	福岡	272	—	—	—	—	—	272	435	707						25	4	29	3
	定時制中心										14	—	14	56	70	3	0	3	0
	(浄法寺)										13	—	13	41	54	2	1	3	1
	(伊保内)										9	—	9	29	38	1	1	2	1
42	一戸	146	19	—	—	—	17	182	243	425						20	6	26	4
	定時制中心										2	—	2	61	63	3	0	3	0
43	美術工芸	美 6	—	—	—	—	—	6	50	56						2	1	3	0
1	盛岡市立	308	—	—	293	—	—	601		601						20	5	25	2
2	玉山										50	—	50	70	120	2	2	4	2
	合計	7391 美 6	180	2	834	0	1131	9544	14720	24264	2215	99	2314	6031	8345	1315	266	1581	182

表 II-2　昭和35年度　生徒数と教員数 (1)

番号	学校名	全日制 女子生徒数 普	農	工	商	水	家	計	男子生徒数 計	合計	定時制・通信制 女子生徒数 普	職業	計	男子生徒数 計	合計	教員数（本務） 男	女	計	家庭科（再掲）
1	盛岡第一	175	—	—	—	—	—	175	968	1143						42	0	42	0
	定時制中心										85	—	85	278	363	13	0	13	0
	(雫　石)										60	—	60	165	225	7	2	9	1
	(好　摩)										26	—	26	41	67	4	1	5	1
	通信教育										(266)	—	(266)	(570)	(836)	8	1	9	0
2	盛岡第二	786	—	—	—	—	—	786	7	793						27	9	36	2+1指主
3	杜　陵										135	—	135	292	427	20	0	20	0
4	盛岡農業	11	—	—	—	—	—	11	732	743						38	1	39	1
	定時制農業										—	32	32	99	131	6	1	7	1
	(矢　巾)										—	21	21	34	55	4	1	5	1
	(乙　部)										—	16	16	34	50	4	1	5	1
5	盛岡工業	17	—	20	—	—	—	37	956	993						54	1	55	1
	定時制機械										—	—	—	172	172	7	0	7	0
6	盛岡商業	—	—	—	152	—	—	152	650	802						31	2	33	2
7	沼宮内	106	—	—	—	—	—	106	168	274						13	1	14	1
	(葛　巻)										41	—	41	50	91	5	0	5	0
8	平　館	138	—	—	—	—	—	138	190	328						12	3	15	2
9	紫　波	161	—	—	—	—	131	292	263	555						22	5	27	3
10	花巻北	146	—	—	52	—	—	198	581	779						31	0	31	0
11	花巻南	620	—	—	—	—	—	620	0	620						19	6	25	3
	定時制中心										66	—	66	175	241	8	2	10	1
	(湯　口)										56	—	56	39	95	4	1	5	1
12	花巻農業	—	—	—	—	—	135	135	382	517						24	2	26	2
	(笹　間)										11	57	68	88	156	5	1	6	1
13	大　迫	121	—	—	—	—	—	121	116	237						13	1	14	1
14	黒沢尻北	159	—	—	—	—	—	159	454	613						23	2	25	0
15	黒沢尻南	463	—	—	—	—	—	463	0	463						17	4	21	3
	定時制中心										55	—	55	111	166	7	2	9	1
	(口　内)										32	—	32	33	65	4	1	5	1
	(和　賀)										22	—	22	42	64	4	1	5	1
	(川　尻)										46	—	46	51	97	4	1	5	1
	(沢　内)										49	—	49	59	108	5	1	6	1
16	北上農業	—	—	—	—	—	131	131	190	321						16	3	19	3
17	黒沢尻工業	—	—	—	—	—	131	131	724	855						45	3	48	3
	定時制機械										—	—	—	142	142	13	0	13	0
	〃　電気										—	—	—	146	146				
18	土　沢	122	—	—	—	—	—	122	161	283						12	3	15	1
	別科家庭科										—	35	35		35	1	1	2	1
19	水　沢	400	—	—	—	—	—	400	560	960						32	4	36	3
	(金ケ崎)										17	—	17	102	119	5	1	6	1
	(胆　沢)										19	—	19	64	83	5	1	6	1
20	水沢農業	—	—	—	—	—	274	274	382	656						26	5	31	4
	定時制農業										—	—	—	121	121	5	0	5	0
21	水沢商業	—	—	—	194	—	—	194	301	495						19	1	20	1

表 II-2　昭和35年度　生徒数と教員数 (2)

番号	学校名	全日制 女子生徒数 普	農	工	商	水	家	計	男子生徒数 計	合計	定時制・通信制 女子生徒数 普	職業	計	男子生徒数 計	合計	教員数（本務） 男	女	計	家庭科(再掲)
	定時制商業										—	29	29	94	123	3	2	5	0
22	前沢	149	—	—	—	—	—	149	151	300						15	1	16	1
	定時制中心										36	—	36	24	60	3	1	4	1
	別科家庭科										—	23	23	—	23	—	—	—	—
	(衣川)										32	—	32	44	76	4	1	5	1
23	岩谷堂	284	—	—	—	—	125	409	551	960						38	6	44	5
24	江刺										—	39	39	66	105	8	1	9	1
	(玉里)										—	20	20	47	67	4	1	5	1
	(広瀬)										—	35	35	43	78	4	1	5	1
	(梁川)										—	66	66	77	143	5	2	7	2
	(伊手)										—	42	42	44	86	4	1	5	1
25	一関第一	218	—	—	75	—	—	293	665	958						35	2	37	1
	定時制中心										56	—	56	191	247	9	0	9	0
	(舞川)										16	—	16	48	64	4	1	5	1
	(真滝)										13	—	13	29	42	3	1	4	1
	(厳美)										15	—	15	44	59	4	1	5	1
26	一関第二	556	—	—	—	—	—	556	484	1040						37	6	43	2
27	花泉	155	—	—	—	—	—	155	155	310						12	3	15	3
28	摺沢	215	16	—	—	—	—	231	335	566						23	3	26	1
	定時制中心										12	—	12	45	57	8	0	8	0
	(大原)										74	—	74	32	106	3	2	5	1
	(興田)										38	—	38	46	84	3	1	4	1
	(猿沢)										29	—	29	37	66	3	1	4	1
	(松川)										18	—	18	28	46	3	1	4	1
29	藤沢	64	35	—	—	—	—	99	119	218						13	3	16	2
30	千厩	213	—	—	—	—	119	332	414	746						31	5	36	3
	定時制農業										31	—	31	35	66	4	1	5	1
	(薄衣)										16	—	16	28	44	3	1	4	1
31	高田	447	—	—	—	—	—	447	163	610						20	6	26	2
	定時制中心										60	—	60	66	126	4	0	4	0
	(世田米)										70	—	70	61	131	4	2	6	2
32	広田水産	—	—	—	—	—	124	124	223	347						18	3	21	2
33	盛	158	131	—	—	—	—	289	290	579						22	4	26	3
	定時制中心										29	—	29	108	137	5	0	5	0
	(上有住)										—	18	18	52	70	4	1	5	1
	(越喜来)										—	81	81	45	126	4	1	5	1
34	釜石	586	—	—	—	—	—	586	486	1072						35	5	40	3
	定時制中心										88	—	88	273	361	11	1	12	1
	(唐丹)										36	—	36	49	85	3	1	4	1
	(鵜住居)										21	—	21	57	78	3	1	4	0
	(大松)										10	—	10	42	52	4	0	4	0
35	釜石工業	—	—	—	—	—	—	—	362	362						24	0	24	0
36	釜石商業	—	—	—	241	—	—	241	218	459						18	2	20	1
37	遠野	316	54	—	—	—	—	370	377	747						32	4	36	3

表 II-2　昭和35年度　生徒数と教員数（3）

番号	学校名	全日制 女子生徒数 普	農	工	商	水	家	計	男子生徒数 計	合計	定時制・通信制 女子生徒数 普	職業	計	男子生徒数 計	合計	教員数（本務） 男	女	計	家庭科（再掲）
	（土　渕）										—	11	11	22	33	4	0	4	0
	（宮　守）										22	—	22	41	63	4	1	5	1
	（鱒　沢）										24	—	24	23	47	3	2	5	1
38	大　槌	154	—	—	—	—	—	154	118	272						12	3	15	2
	定時制中心										28	—	28	80	108	4	1	5	1
39	山　田	153	—	—	—	—	—	153	119	272						13	2	15	2
	定時制中心										26	—	26	81	107	4	1	5	1
40	宮　古	305	—	—	157	—	141	603	465	1068						37	4	41	3
	定時制中心										68	—	68	100	168	6	2	8	2
	（田　老）										34	—	34	18	52	4	1	5	1
	（田老鉱山）										—	10	10	26	36	4	0	4	0
	（刈　屋）										27	—	27	50	77	4	1	5	1
	（川　井）										15	—	15	31	46	4	1	5	1
41	宮古水産	—	—	—	—	—	128	128	481	609						30	4	34	2
	専攻科漁業	—	—	—	—	—	—	—	27	27			—			—	—	—	—
	定時制水産										—	—	—	69	69	3	0	3	0
42	岩　泉	74	48	—	—	—	—	122	144	266						13	3	16	3
	（小　本）										21	—	21	13	34	2	1	3	1
	（小　川）										13	—	13	25	38	4	1	5	1
	（田野畑）										18	—	18	18	36	4	1	5	1
43	久　慈	139	—	—	—	—	120	259	463	722						38	6	44	3
	定時制中心										45	—	45	45	90	5	1	6	0
	（種　市）										15	—	15	10	25	3	1	4	1
	別科潜水科										—	—	—	18	18	—	—	—	—
	（大　野）										45	—	45	24	69	4	2	6	2
	（山　形）										32	—	32	—	32	1	2	3	2
	（野　田）										30	—	30	16	46	4	1	5	1
44	軽　米	107	—	—	—	—	—	107	118	225						11	2	13	1
45	福　岡	244	—	—	56	—	—	300	483	783						29	4	33	3
	定時制中心										28	—	28	57	85	5	1	6	1
	（浄法寺）										19	—	19	72	91	3	1	4	1
	（伊保内）										43	—	43	30	73	3	1	4	1
46	一　戸	156	—	—	—	—	131	287	304	591						21	5	26	3
	定時制中心										20	—	20	50	70	5	0	5	0
1	盛岡市立	310	—	—	305	—	—	615	196	811						30	6	36	2
2	一関工業	—	—	4	—	—	—	4	178	182						12	0	12	0
	合　計	8428	284	24	1232	0	1690	11658	15874	27532	1993	535	2528	5012	7540	1494	218	1712	153

表 II-3　昭和41年度　生徒数と教員数 (1)

番号	学校名	全日制 女子生徒数 普	農	工	商	水	家	計	男子生徒数 計	合計	定時制・通信制 女子生徒数 普	職業	計	男子生徒数 計	合計	教員数（本務） 男	女	計	家庭科（再掲）
1	盛岡第一	222	—	—	—	—	—	222	1013	1235						50	1	51	0
	(雫石)	143	—	—	—	—	—	143	199	342						15	2	17	1
	定時制中心										161	—	161	196	357	16	1	17	0
	(好摩)										32	—	32	89	121	6	2	8	1
	(一本木)										5	—	5	129	134	7	—	7	—
2	盛岡第二	856	—	—	—	—	—	856	—	856						33	9	42	1+2指主
3	盛岡第三	172	—	—	—	—	—	172	799	971						37	2	39	1
4	盛岡第四	460	—	—	—	—	—	460	535	995						36	5	41	1
5	杜陵										226	—	226	189	415	19	2	21	0
6	盛岡農業	28	186	—	—	—	—	214	635	849						44	5	49	2
	(乙部)										—	31	31	94	125	7	1	8	1
	(矢巾)										—	29	29	111	140	6	2	8	1
7	盛岡工業	—	—	62	—	—	—	62	943	1005						62	1	63	0
	定時制中心										—	1	1	301	302	18	1	19	0
8	盛岡商業	—	—	—	320	—	—	329	824	1144						47	3	50	1
	定時制中心										—	27	27	124	151	8	—	8	0
9	沼宮内	170	—	—	—	—	123	293	145	438						17	5	22	3
	(葛巻)全日	61	—	—	—	—	—	61	123	184						7	2	9	1
	(葛巻)定時										40	—	40	37	77	5	—	5	—
10	平館	282	—	—	—	—	180	462	340	802						25	9	34	3
11	紫波	344	—	—	—	—	140	484	426	910						33	6	39	3
12	花巻北	179	—	—	33	—	—	212	584	796						33	—	33	—
	(石鳥谷)	—	—	—	50	—	—	50	54	104						6	—	6	—
13	花巻南	643	—	—	—	—	—	643	—	643						22	6	28	2
	定時制中心										107	—	107	133	240	10	3	13	1
	(湯口)										112	—	112	94	206	6	2	8	1
14	花巻農業	—	262	—	—	—	—	262	526	788						38	6	44	4
	(笹間)										—	69	69	120	189	8	2	10	1
15	大迫	240	—	—	—	—	—	240	204	444						17	3	20	1
16	黒沢尻北	201	—	—	—	—	—	201	628	829						33	2	35	0
17	黒沢尻南	862	—	—	—	—	—	862	—	862						29	7	36	3
	定時制中心										63	—	63	69	132	8	—	8	—
	(口内)										25	—	25	22	47	3	2	5	1
	(和賀)										16	—	16	52	68	4	1	5	1
	(川尻)										25	—	25	45	70	6	—	6	—
	(沢内)										78	—	78	107	185	7	1	8	1
18	北上農業	—	264	—	—	—	—	264	263	527						23	6	29	4
19	黒沢尻工業	—	—	2	—	—	—	2	957	959						57	2	59	—
	定時制中心										—	—	—	266	266	18	—	18	—
20	東和	201	—	—	—	—	130	331	214	545						19	5	24	4
21	水沢	472	—	—	—	—	—	472	736	1208						42	6	48	2
	(金ケ崎)	195	—	—	—	—	—	195	193	388						14	3	17	1
	(金ケ崎)													21	21	1	—	1	—
	(胆沢)										53	—	53	121	174	7	1	8	1

表 II-3　昭和41年度　生徒数と教員数（2）

番号	学校名	全日制									定時制・通信制					教員数（本務）			
		女子生徒数							男子生徒数	合計	女子生徒数			男子生徒数	合計	男	女	計	家庭科（再掲）
		普	農	工	商	水	家	計	計		普	職業	計	計					
22	水沢農業	—	263	—	—	—	—	263	513	776						35	8	43	5
23	水沢商業	—	—	—	418	—	—	418	382	800						30	4	34	1
	定時制中心										—	63	63	98	161	7	—	7	—
24	前沢	324	—	—	—	—	—	324	284	608						23	3	26	1
	（衣川）										38	—	38	76	114	5	2	7	1
25	岩谷堂	259	—	—	186	—	—	445	329	774						29	4	33	1
26	岩谷堂農林	—	261	—	—	—	—	261	383	644						31	7	38	4
27	江刺										—	91	91	154	245	15	2	17	
	（玉里）										—	26	26	62	88	5	3	8	
	（広瀬）										—	21	21	42	63	6	1	7	7
	（梁川）										—	50	50	44	94	7	1	8	
	（伊手）										—	41	41	52	93	6	1	7	
28	一関第一	337	—	—	72	—	—	409	675	1084						39	5	44	1
	定時制中心										78	—	78	255	333	13	—	13	—
	（舞川）										18	—	18	47	65	5	1	6	1
29	一関第二	654	213	—	—	—	—	867	508	1375						51	9	60	5
30	花泉	314	—	—	—	—	—	314	249	563						19	6	25	2
31	大東	467	30	—	—	—	—	497	535	1032						39	6	45	1
	定時制中心										17	—	17	50	67	6	—	6	—
	（大原）全日	—	—	—	198	—	—	198	112	310						11	3	14	1
	（大原）定時										33	—	33	17	50	—	—	—	—
	（興田）										10	—	10	12	22	2	1	3	1
	（猿沢）										44	—	44	59	103	6	—	6	—
	（松川）										2	—	2	7	9	—	1	1	1
32	藤沢	186	—	—	—	—	—	186	182	368						31	3	16	1
33	千厩	303	143	—	—	—	—	446	582	1028						37	10	47	4
	定時制中心										107	—	107	48	155	6	3	9	1
34	高田	455	—	—	249	—	—	704	252	956						33	8	41	2
	（住田）	165	—	—	—	—	—	165	145	310						10	4	14	2
	定時制中心										79	—	79	52	131	8	—	8	—
	（世田米）										34	—	34	28	62	3	—	3	—
35	広田水産	—	—	—	—	10	180	190	273	463						23	5	28	4
36	大船渡	243	—	—	—	—	—	243	272	515						19	4	23	1
	定時制中心										54	—	54	75	129	7	1	8	0
37	大船渡農業	—	242	—	—	—	—	242	188	430						21	6	27	3
	（越喜来）										—	82	82	71	153	6	2	8	2
38	大船渡工業	—	—	39	—	—	—	39	676	715						48	1	49	—
39	釜石南	614	—	—	—	—	—	614	615	1229						45	5	50	2
	定時制中心										106	—	106	209	315	13	2	15	1
	（唐丹）										59	—	59	51	110	5	1	6	1
40	釜石北	643	—	—	—	—	—	643	550	1193						42	6	48	2
	定時制中心										22	—	22	81	103	4	1	5	1
41	釜石工業	—	—	13	—	—	—	13	809	822						52	2	54	0
42	釜石商業	—	—	—	498	—	—	498	148	646						24	5	29	1

表 II-3　昭和41年度　生徒数と教員数 (3)

番号	学校名	全日制 女子生徒数 普	農	工	商	水	家	計	男子生徒数 計	合計	定時制・通信制 女子生徒数 普	職業	計	男子生徒数 計	合計	教員数(本務) 男	女	計	家庭科(再掲)
	遠野	319			161			480	537	1017						38	5	43	1
	(宮守)										25	—	25	80	105	3	2	5	1
43	遠野農業	—	256	—	—	—	—	256	249	505						24	6	30	4
44	大槌	424	—	—	—	—	—	424	281	705						27	3	30	1
	定時制中心										35	—	35	79	114	6	1	7	1
45	山田	247	—	—	—	—	—	247	192	439						17	4	21	1
	定時制中心										50	—	50	60	110	7	—	7	—
46	宮古	524	—	—	—	—	—	524	578	1102						42	4	46	1
	定時制中心										93	—	93	119	212	9	2	11	1
	(田老)										111	—	111	76	187	6	1	7	1
	(田老鉱山)										1	—	1	4	5	2	—	2	—
	(刈屋)										30	—	30	62	92	5	1	6	1
	(川井)										71	—	71	140	211	7	1	8	1
47	宮古商業	—	—	—	507	—	171	678	362	1040						33	9	42	3
48	宮古水産	—	—	—	—	—	139	139	528	667						39	4	43	2
	(船越)										—	—	—	93	93	9	—	9	—
49	岩泉	58	—	—	—	—	152	210	217	427						17	8	25	3
	(小本)										18	—	18	63	81	4	1	5	1
	(小川)										19	—	19	44	63	4	1	5	1
	(田野畑)										53	—	53	57	110	6	1	7	1
50	久慈	232	—	1	—	—	—	233	447	680						32	4	36	1
	(種市)	80	—	—	—	—	—	80	99	179						7	1	8	1
	定時制中心										52	—	52	71	123	6	1	7	0
	(種市)										—	—	—	5	5	1	—	1	—
	(大野)										52	—	52	62	114	4	1	5	1
	(山形)										29	—	29	6	35	2	1	3	1
	(野田)										16	—	16	—	16	3	1	4	1
51	久慈農林水	—	122	—	—	—	211	333	434	767						38	6	44	5
52	軽米	206	—	—	—	—	—	206	226	432						17	3	20	1
53	福岡	325	—	—	151	—	—	476	446	922						33	6	39	1
	定時制中心										50	—	50	61	111	7	1	8	1
	(浄法寺)										38	—	38	43	81	5	—	5	—
	(伊保内)										46	—	46	41	87	4	1	5	1
54	福岡工業	—	—	2	—	—	—	2	615	617						38	—	38	—
55	一戸	341	—	—	—	—	145	486	470	956						34	8	42	3
	定時制中心										54	—	54	75	129	6	2	8	0
	盛岡第一通信															12	1	13	—
1	盛岡市立	302	—	—	—	—	304	606	449	1055						39	7	46	2
2	一関工業	—	—	4	—	—	—	4	322	326						23	1	24	0
	合計	13573	2242	123	2843	10	1875	20846	25475	46321	2487	531	3018	5151	8169	2334	353	2687	155

表 II-4　昭和47年度　生徒数と教員数（1）

番号	学校名	全日制 女子生徒数 普	農	工	商	水	家	計	男子生徒数 計	合計	定時制・通信制 女子生徒数 普	職業	計	男子生徒数 計	合計	教員数（本務） 男	女	計	家庭科（再掲）
1	盛岡第一	227＋3理数	—	—	—	—	—	230	870	1100						54	2	56	0
	(好摩)										17	—	17	38	55	7	1	8	1
	(一本木)										10	—	10	120	130	7	—	7	0
2	盛岡第二	746	—	—	—	—	—	746	—	746						43	9	52	1＋2指主
3	盛岡第三	205	—	—	—	—	—	205	697	902						46	3	49	0
4	盛岡第四	295	—	—	—	—	—	295	549	844						41	3	44	1
5	杜陵										208	89	297	339	636	30	6	36	2
6	盛岡農業	—	287	—	—	—	—	287	551	838						48	7	55	4
7	盛岡工業	—	—	68	—	—	—	68	993	1061						70	1	71	0
	定時制中心										—	1	1	280	281	19	—	19	0
8	盛岡商業	—	—	—	285	—	—	285	684	969						44	6	50	1
9	沼宮内	215	—	—	—	—	139	354	154	508						22	7	29	3
10	葛巻	186	—	—	—	—	—	186	194	380						17	4	21	1
11	平館	281	—	—	—	—	279	560	288	848						30	11	41	5
12	雫石	206	—	—	—	—	—	206	304	510						25	5	30	2
13	紫波	267	25				143	435	415	850						40	8	48	3
14	花巻北	238	—	—	—	—	—	238	458	696						36	2	38	} 1
	(石鳥谷)	—	—	—	178	—	—	178	150	328						15	1	16	
15	花巻南	687	—	—	—	—	—	687	—	687						29	6	35	2
	定時制中心										59	113	172	34	206	8	4	12	1
	(湯口)										3	—	3	2	5	2	—	2	—
16	花巻農業		279	—	—	—	—	279	440	719						40	8	48	4
	(笹間)	—									—	18	18	23	41	5	1	6	1
17	大迫	210	—	—	—	—	—	210	184	394						19	6	25	1
18	黒沢尻北	281	—	—	—	—	—	281	553	834						40	2	42	0
19	黒沢尻南	827	—	—	—	—	—	827	—	827						33	8	41	3
	定時制中心										67	—	67	29	96	8	—	8	—
20	西和賀	208	—	—	—	—	—	208	166	374						16	4	20	2
21	北上農業		275	—	—	—	—	275	224	499						25	7	32	4
22	黒沢尻工業	—	—	2	—	—	—	2	956	958						60	2	62	0
	定時制中心	—									—	—	—	252	252	18	—	18	—
23	東和	206	—	—	—	—	136	342	193	535						23	6	29	3
24	水沢	328＋19理数	—	—	—	—	—	347	623	970						46	5	51	1
	(胆沢)	92	—	—	—	—	—	92	85	177						6	3	9	1
	(胆沢)										46	—	46	51	97	4	—	4	—
25	水沢農業		315	—	—	—	—	315	422	737						38	7	45	4
26	水沢工業	—		27				27	458	485						34	2	36	0
27	水沢商業		—	—	486	—	—	486	235	721						34	4	38	1
	定時制中心											55	55	73	128	8	—	8	—
28	前沢	345	—	—	—	—	—	345	206	551						25	4	29	1
	(衣川)										29	—	29	41	70	6	2	8	1
29	金ケ崎	223	—	—	—	—	—	223	256	479						20	5	25	1
30	岩谷堂	249			203			452	237	689						32	5	37	1
31	岩谷堂農林	—	256	—	—	—	—	256	360	616						32	9	41	4

表 II-4　昭和47年度　生徒数と教員数 (2)

番号	学校名	全日制 女子生徒数 普	農	工	商	水	家	計	男子生徒数 計	合計	定時制・通信制 女子生徒数 普	職業	計	男子生徒数 計	合計	教員数（本務） 男	女	計	家庭科(再掲)
32	江　刺											104	104	122	226	14	5	19	4
33	一関第一	300＋6理数			59			365	595	960						47	3	50	0
	定時制中心										99	—	99	113	212	11	1	12	1
34	一関第二	562	—	—	—	—	—	562	376	938						45	5	50	2
35	一関農業	—	250	—	—	—	—	250	218	468						25	7	32	4
36	花　泉	359	—	—	65	—	—	424	255	679						30	6	36	2
37	大　東	460	6	—	—	—	—	466	469	935						40	7	47	1
	定時制中心										24	—	24	33	57	7	—	7	—
	(猿　沢)										18	—	18	16	34	4	1	5	—
	(大　原)	—	—	—	257	—	—	257	156	413						18	4	22	1
38	藤　沢	231	—	—	—	—	—	231	193	424						20	4	24	1
39	千　厩	311	128					439	439	878						42	8	50	2
	定時制中心										89	—	89	30	119	10	2	12	1
40	高　田	419	—	—	225	—	—	644	236	880						39	5	44	2
	定時制中心										56	—	56	16	72	6	1	7	0
41	住　田	256	—	—	—	—	—	256	170	426						19	5	24	1
42	広田水産	—	—	—	—	59	143	202	196	398						26	6	32	4
43	大船渡	259	—	—	—	—	—	259	299	558						27	4	31	1
	定時制中心										63	—	63	40	103	7	—	7	0
44	大船渡農業	—	343	—	—	—	—	343	130	473						25	8	33	4
	(越喜来)										—	15	15	19	34	3	1	4	1
45	大船渡工業			31				31	675	706						50	1	51	0
46	釜石南	453＋24理数	—	—	—	—	—	477	624	1101						50	4	54	1
	定時制中心										53	—	53	77	130	9	—	9	—
	(唐　丹)										5	—	5	10	15	3	—	3	—
47	釜石北	600	—	—	—	—	—	600	492	1092						47	6	53	2
	定時制中心										15	—	15	43	58	6	1	7	1
48	釜石工業	—	—	32	—	—	—	32	780	812						58	2	60	0
49	釜石商業	—	—	—	566	—	—	566	107	673						31	7	38	1
50	遠　野	323	—	—	140	—	—	463	537	1000						48	3	51	1
	(宮　守)	70	—	—	—	—	—	70	77	147						5	2	7	1
	(宮　守)										21	—	21	39	60	3	1	4	0
51	遠野農業	—	265	—	—	—	—	265	235	500						26	9	35	4
52	大　槌	381	—	—	—	—	—	381	285	666						32	4	36	2
	定時制中心										26	—	26	47	73	6	2	8	1
53	山　田	295	—	—	—	—	—	295	171	466						20	6	26	1
	定時制中心										29	—	29	35	64	6	—	6	—
54	宮　古	529	—	—	—	—	—	529	526	1055						48	4	52	1
	(田　老)	93	—	—	—	—	—	93	47	140						5	1	6	1
	(川　井)	32	—	—	—	—	—	32	63	95						3	2	5	1
	定時制中心										85	—	85	82	167	5	3	8	1
	(田　老)										28	—	28	25	53	4	—	4	—
	(刈　屋)										13	—	13	32	45	6	—	6	—
	(川　井)										39	—	39	42	81	4	—	4	—

表 II-4　昭和47年度　生徒数と教員数（3）

番号	学校名	全日制 女子生徒数 普	農	工	商	水	家	計	男子生徒数 計	合計	定時制・通信制 女子生徒数 普	職業	計	男子生徒数 計	合計	教員数（本務） 男	女	計	家庭科（再掲）
55	宮古商業	—	—	—	555	—	93	648	326	974						43	5	48	2
56	宮古水産	—	—	—	—	27	178	205	534	739						40	7	47	3
	（船越）										—	5	5	71	76	7	—	7	—
57	岩泉	166	—	—	—	—	132	298	270	568						26	7	33	3
	（田野畑）	48	—	—	—	—	—	48	37	85						4	1	5	1
	（田野畑）										22	—	22	30	52	4	—	4	—
	（小本）										30	—	30	50	80	6	2	8	1
	（小川）										30	—	30	23	53	5	1	6	0
58	久慈	316	—	4	—	—	—	320	464	784						38	4	42	} 1
	（大野）	154	—	—	—	—	—	154	117	271						9	4	13	
	（長内）										59	—	59	47	106	8	1	9	0
	（大野）										22	—	22	15	37	2	—	2	—
	（山形）										38	—	38	30	68	5	1	6	1
59	種市	283	—	—	—	—	—	283	166	449						26	4	30	2
60	久慈農林	—	114	—	—	—	140	254	220	474						26	7	33	4
61	久慈水産	—	—	—	—	3	142	145	176	321						21	4	25	4
62	軽米	309	—	—	—	—	—	309	304	613						27	4	31	1
63	福岡	246	—	—	194	—	—	440	412	852						37	5	42	1
	（伊保内）	106	—	—	—	—	—	106	74	180						5	4	9	1
	（浄法寺）	28	—	—	—	—	—	28	22	50						1	—	1	0
	定時制中心										59	—	59	45	104	8	1	9	0
	（伊保内）										27	—	27	25	52	6	—	6	—
	（浄法寺）										30	—	30	27	57	4	—	4	—
64	福岡工業			2				2	601	603						39	2	41	0
65	一戸	321	4	—	—	—	141	466	390	856						34	10	44	4
	定時制中心										86	—	86	20	106	7	1	8	0
	杜陵通信制															24	6	30	1
1	盛岡市立	443	—	—	287	—	—	730	239	969						41	7	48	2
2	一関工業	—	—	2	—	—	—	2	372	374						28	1	29	0
	合計	14875 理数52	2547	168	3500	89	1666	22897	24980	47787	1505	400	1905	2486	4391	2676	406	3082	146

註）1）岩手県教育年報（1968）岩手県教育委員会
　　2）学校一覧　岩手県教育委員会
　　3）岩手県学事関係職員録‥岩手県教育会館をもとに，聞取り調査を併用して補充した。

表 II-5　女子系高等学校における男子入学者数

年度	盛岡第二	花巻南	黒沢尻南
29	36 人	10 人	41 人
30	22	2	27
31	19	0	10
32	5	0	8
33	8	0	0
34	—	—	—

岩手県教育年報（1954～1959年）岩手県教育委員会をもとに作成　普通科

定時制本分校あわせて 86 校中 60 校（黒沢尻工業高校は男子のみのため除く）69.8% の配置状況である。昭和 28 年度家庭科教員数は 182 名で全女子教員に占める割合が 68.4% と高く（表 II-5），特に定時制においては 77% と高い率を占めている。

(2)　昭和 35 年度

戦前女学校だった学校にも新制高等学校発足当初共学制が敷かれ，男子が入学したが，遂に男子の入学生がゼロとなったので，昭和 34 年度入学生より盛岡第二高校が，昭和 31 年度入学生より花巻南高校が，昭和 33 年度入学生より黒沢尻南高校が再び女子高校となり，普通科女子高校が 3 校となった（表 II-6）。昭和 54 年度現在もこの形態は同じである。しかし全体としては綜合制の形態は続いており，ひとつの学校に 2〜3 の学科が設置されている状態はあまり変らない。

表 II-6　女子生徒数に対する女子教員数と家庭科教員数の占める割合の推移

課程	全日制				定時制				全体
項目／年度	女子生徒数	女子教員数 A	女子教員に占める家庭科教員 家庭科教員数 B	比率 (B/A)	女子生徒数	女子教員数（通信制含）A′	女子教員に占める家庭科教員 家庭科教員数 B′	比率 (B/A)	女子教員に占める家庭科教員比
28	9,544	169	107	(63)	2,294	97	75	(77)	68.4
35	14,186	148	93	(63)	2,528	70	60	(86)	70.2
41	20,848	289	113	(39)	3,018	64	42	(66)	44.0
47	22,897	361	127	(35)	1,905	45	18	(40)	36.0
53	25,945	330	140	(42)	689	26	4	(15)	40.4

1.　「岩手県教育年報」岩手県教育委員会刊をもとにして作成　　（本務教員）
2.　家庭科教員数の基礎数字は 28 年度と 35 年度は「岩手県学事関係職員録」岩手教育会館発行
41 年度，47 年度については，「岩手県高等学校家庭科教育協会」53 年度は「岩手県高等学校教育研究会家庭部会」の名簿をもとにし，更に聞き取り調査を行って補完した。

表 II-7　女子生徒数に対する教員数の割合の推移

項目／課程／年度	女子生徒数に対する女子教員数の割合 (%) 全日制	定時制	女子生徒数に対する家庭科教員数の割合 (%) 全日制	定時制	全体
28	1.8	4.2	1.1	3.3	1.5
35	1.0	2.8	0.7	2.4	0.9
41	1.4	2.1	0.5	1.4	0.6
47	1.6	2.4	0.6	0.9	0.6
53	1.3	3.8	0.5	0.6	0.5

家庭科教員の各校配置状況は全日制本校 46 校中（釜石工業男子のみのため除く）43 校で配置率は 93.5% で，定時制は本分校，別科あわせて（男子校 5 校除く）70 校中 54 校の配置で配置率 77.1% となっている。家庭科教員数は 153 名で 7 年前に比べて 29 名も減っており，生徒数がふえているのに減少が目立つ。表 II-6，表 II〜7 に示すとおり全女子生徒数に対する家庭科教員数の割合は，昭和 28 年度 1.5%（全日制 1.1%，定時制 3.3%）から，昭和 35 年度 0.9%（全日制 0.7%，定時制 2.4%）と減少が目立つ。

(3)　昭和 41 年度

綜合制がくずれかけて普通科系高校と職業高校に分離する傾向のなかで，昭和 38 年度から

農業高校に設置されていた家政科が生活科に変わり，普通科系高校や水産，商業高校に設置されていた家政科はそのまま残った。また働きながら学ぶ定時制生徒の形態にも変化がみられ，全日制の増加に比し定時制はあまりふえない。また昭和38年度から普通科女子において「家庭一般」が原則4単位必修と改められ，従来の「家庭一般」7〜14単位から大きく後退したこともあって女子生徒数に対する家庭科教員の割合の減少が目立つようになった。表II-7に示すように昭和28年度女子生徒数に対する家庭科教員の割合が1.5%だったのが，昭和35年度0.9%，昭和41年度0.6%と下降の一途をたどっている。全日制本校50校中（工業高校6校除く）家庭科教員は47校に配置され配置率は94.0%となっている。しかし工業高校にも女子が在籍しているのでその6校を加えると配置率は83.9%とさらに低くなる。

(4)　昭和47年度

高校進学率が岩手県[14]において74.9%（男子73.2%，女子76.6%）と女子が男子を上まわるようになり，また大学進学率も向上して岩手県においては男女とも20.5%[15]（全国男子30.0%，女子28.4%）と女子の進路も多様な傾向がみられるようになった。逆に定時制の生徒数の減少が目立ち，全生徒数に対する定時制生徒数の割合は8.4%（男子9.1%，女子7.7%）となり昭和28年度の25.5%（男子29.1%，女子19.2%）からみて大巾な減少である。

表 II-8　家庭科教員並びに実習助手の年度別構成

区分＼年度	高等学校			特殊教育諸学校（高等学校家庭部会所属者）	
	教諭・助教諭・講師	指導主事・研究員	実習助手（所属校）	教諭・助教諭・講師	実習助手（所属校）
28	181	1	0	1	0
35	152	1	0	2	0
41	153	2	0	4	0
47	144	2	4（盛農，花巻農，一関農，広田水）	5	2（一関聾）
53	142	2	11（盛農，久慈農，久慈水，花巻農，遠野農，宮古水，水沢農2，一関農，広田水，大船渡農）	11	1（一関聾）

家庭科教員の配置状況は普通系高校においては1〜2名に減り，ひとりで2校を兼務する教員もあり，女子生徒数に対する家庭科教員の比率はいよいよ減少し（表II-7）0.6%（全日制0.6%，定時制0.9%）となったが逆に女子教員全体としては全日制で1.6%と昭和41年度の1.4%より増加している。養護教員の配置増の影響かとも思われる。また特殊教育の充実振興により教員数も増加しているが表II-8にみられる如く高等学校家庭部会に所属する家庭科教員数も年々増加しており，専門性を生かして特殊教育の指導，振興に精励しているのがわかる。

全日制本校における家庭科教員の配置状況は59校中（工業高校7校除く）56校（盛岡第一，盛岡第三，黒沢尻北高校不在）で94.9%の配置率となって，配置率は向上したかにみえるが女子生徒数に対する家庭科教員数の割合ははさらに減ったのである。全日制本校で1校1人の家庭科教

14)　岩手大学教育学部研究年報（1977）p.48.
15)　「教育のあゆみ」岩手学教育委員会 52.2発刊 p.80.

員の配置校は 24 校である。

2. 教育課程の変遷と家庭科教員数の変遷

(1) 普通科における家庭科履修と教員数

戦後高等学校における教育課程の変遷は 5 回にわたって行われ，家庭科も 1)「一般家庭」[16] 7・7 時代（昭和 24 年から 26 年まで）から，2)「家庭一般」4 の時代（昭和 31 年度実施），3)「家庭一般」4 単位原則必修時代（昭和 38 年度実施），4) すべての女子に「家庭一般」必修の時代へ（昭和 48 年度実施）と移行していくなかで，普通科における家庭科教員の変遷は大なるものがあった（表 II-9）は盛岡第二，花巻南，黒沢尻南高校の年度別家庭科履修状況と家庭科教員数を表したものであるがこの表によって家庭科履修の形態が複線型から単線型へと移行していくのがよくわかる。盛岡第二高校[17] の場合，昭和 33 年ごろより大学，各種学校進学率が高まり，昭和 46 年度からは就職者は 20% を下り，昭和 52 年度は 11% と激減し，逆に進学希望者が増大し，昭和 52 年度においては大学，各種学校合格者は 100% を越えている（過年度含み，1 人 2 校以上の

表 II-9　女子系高校における家庭科履修状況と家庭科教員数の推移
（年度別入学生在学期間）

年度	盛岡第二				花巻南				黒沢尻南			
	単位数	履修生徒数	在籍生徒数	家庭科教員数	単位数	履修生徒数	在籍生徒数	家庭科教員数	単位数	履修生徒数	在籍生徒数	家庭科教員数
28	7	209	209	2	7 16～24～26 22～24 12	38 53 33 23	147	3	7 9 16 19～24 26～31	9 37 9 30 15	110	4
31	4 17	192 39	231	3	4 10～12～13 15～19～20	52 53 96	201	3	4 6 8～10 12～14 16～18	24 17 92	133	2
38	4 7～4	261 50	311	2	6～ 4 10～ 8 8～ 6	104 54 57	215	3	4 10	103 106	209	2
48	4	270	270	1	4 6 8	117 70 44	231	2	4 11	78 183	261	3
52	4	275	275	1	4 6	119 104	223	2	4 10	137 136	273	3

1) 28～48 年度については岩大教育学部研究年報第 38 巻（1978）p. 34～p. 39 をもとに作成。（全日制普通科）
2) 52 年度については，各学校より聞き取り調査。
3) 家庭科教員については，「岩手県学事関係職員録」をもとにして，聞き取り調査を併用して，補完した。
4) 盛岡第二高校の家庭科教員数は，本務教員数より指導主事，研究員等を除いた数である。

16) 岩手大学教育学部研究年報（1978）p. 24 p. 45 p. 52 p. 62.
17) 岩手大学教育学部研究年報（1978）pp. 51～52.

合格をあわせて)。この傾向は当然教育課程にも変化がみられ，大学入試向きのコースや，選択科目の選択は大学入試に必要な科目を選ぶようになり，家庭科の選択はなくなり，かろうじて「家庭一般」4単位必修がまもられているに過ぎなくなった。当然家庭科教員も全盛時代の3人（女子生徒数比 1.3% 昭和31年度）から，1人（昭和52年度 女子生徒数比 0.4%）に減少している。同じく女子高校である花巻南，黒沢尻南高校も大学進学率は高く，花巻南高校[18]は昭和52年度全日制卒業生230名中大学，各種学校の合格者147名（進学率 64%），就職者69名（就職率 30%）となっており，黒沢尻南高校[19]は全日制卒業生273名中大学，各種学校合格者195名（進学率 71%），就職者71名（就職率 26%）となっている。しかし盛岡第二高校と異なり家庭科を4〜6単位，4〜10単位と選択するコースが用意され食物I，保育，被服Iの中から選択履修している。家庭科教員も複数で昭和52年度花巻南高校の場合，女子生徒数に対する家庭科教員数比は 0.9%，黒沢尻南高校は 1.1% である。

表 II-10-1　昭和41年度　全日制普通科における家庭科目履修単位数と家庭科教員配置状況

履修単位数	学校数	家庭科教員配置状況					
		0人	1人	2人	3人	4人	5人
2〜3	2	2校					
4〜9	29	1	15	5	4	2	2
10〜17	5		2	2	1		
合計	36校	3	17	7	5	2	2

岩手県教育年報（1966）p.178 をもとに構成　（本校のみ）

表 II-10-2　昭和53年度　全日制普通科における家庭科目履修単位数と家庭科教員配置状況

履修単位数	学校数	家庭科教員配置状況						6人
		0人	1人	2人	3人	4人	5人	
4	24	3	17	1	1	1		1
4〜6	6		4	1	1			
4〜7	4		2	1	1			
4〜8	5		3	1	1			
4〜9	3		1	2				
4〜10	3		2		1			
4〜11	3		1	2				
合計	48	3	30	8	5	1		1

岩大教育学部研究年報第38巻（1978）p.74〜p.75 をもとに構成　（本校のみ）

（表 II-10-1），（表 II-10-2）は昭和41年度と昭和53年度の全日制普通科における家庭科履修状況と家庭科教員配置の状況である。この12年間を比較してみると昭和48年度から教育課程が改訂されてすべての女子に「家庭一般」4単位必修となったことを受けて昭和41年度の原則4

18）岩手県立花巻南高等学校　昭和52年度「学校要覧」pp.11〜12.
19）岩手県立黒沢尻南高等学校指導課「進路の手引」進学編（昭 52）pp.3〜16 同じく就職編（昭 52）pp.27〜33 をもとに作成。

単位必修にみられた「家庭一般」2〜3単位校は消滅したが依然として家庭科教員不在校が3校ずつある。女子生徒数は家庭科教員不在校にもそれぞれ200名以上在籍しており，又家庭科教育が目標とする生活への実践化をはかる教育の効果を考えたとき本務教員が不在というのは問題である。定時制においては（表 II-7）に表されるように女子生徒数に対する家庭科教員数の割合が全日制に比べて高く，いわゆるマンツーマン教育に近い形での指導が可能であったが，昭和53年度は定時制女子生徒数689名，家庭科教員数5名（久慈，山形分校，杜陵，一関第一，千厩，宮古）のうち2名は非常勤講師[20]と激減した。

(2)　家庭に関する学科の変遷と教員数

以上昭和28年度，35年度，41年度，47年度と主として全日制普通科並びに定時制における家庭科教員数の変遷について述べたが家庭に関する学科については専門学科に見合った教員数が確保されておりあまり問題はない。昭和47年度より食物科が調理師養成のための専門学科としてスタートするに及んで久慈水産高校と宮古水産高校に男子（調理師）の家庭科教員が1名ずつ配置されたのは大きな変化であった。昭和54年度現在も同じである。又男子生徒[21]が食物科に入学する数も年々増え，昭和47年度7名でスタートしたものが，昭和53年度は51名の在籍となっている。又家庭に関る学科は昭和44年度までは2学級募集校は平館と久慈農林水産（農林校舎と水産校舎各々1学級）の2校で，その後は平館のみであったが，昭和47年度には宮古水産に家政科1学級に加えて食物科が1学級増設（宮古商業家政科募集停止）広田水産が48年度より家政科2学級募集，久慈水産が昭和49年度より食物科と家政科それぞれ1学級募集，久慈農林が昭和52年度より家政科2学級募集となり，昭和53年5月現在1,760名（女子1,709名，男子51名）[22]で9校40学級となっている。家庭に関する学科に配置されている家庭科教員数は（沼宮内 3，平館 6，久慈農林 6　実習助手 1，久慈水産 5　実習助手 1，一戸 4（うち1名は講師），紫波 4（うち1名は理科と兼務），宮古水産 5　実習助手 1，岩泉 3，広田水産 6　実習助手1名）である。

実習助手の増加はめざましいものがある。このきっかけは生活科の出現にあると思われるが，農業に関する学科の実習助手の定数の中から生活科に実習助手が配置されるようになり，家庭に関する学科でも昭和47年度ごろから実習助手が広田水産に配置されたのをはじめとして，食物科設置に伴って順次人数が増えてきた（表 II-8）。

家庭科が実験実習を伴う教科であとことから実習助手の手助けが教育効果を高めることは当然と言えよう。

新教育課程が昭和57年度から実施され家庭科は「科目に充てる総授業時間数のうち，原則として10分の5以上を実験・実習に充てるものとする」[23]と示されていることからして，施設・設備の充実と家庭科本務教員の完全配置，実習助手の完全配置等は目標にせまる最低の条件であろう。

3.　家庭科教員の年齢構成

家庭科教員の年齢構成比を昭和28年度，47年度，53年度と比較してみると昭和28年度の場合は戦前及び戦中の教育制度であった専門学校卒や，戦後の新制大学における短大卒の教員

---

20)　「学校一覧」昭 53　岩手県教育委員会 p. 93.
21)　岩手大学教育学部研究年報（1977）第5部 pp. 50〜51.
22)　「学校一覧」昭 53　岩手県教育委員会
23)　高等学校学習指導要領　昭和53年8月30日　文部省 p. 76.

表 II-11　家庭科教員の年齢構成の推移

年度	28年度		47年度		53年度	
区分／年齢	教員数	全体比(%)	教員数	全科比(%)	教員数	全体比(%)
20～25	78	(43)	27	(18)	14	(10)
26～30	12	(7)	13	(9)	28	(19)
31～35	38	(21)	18	(12)	20	(14)
36～40	22	(12)	14	(10)	21	(15)
41～45	23	(13)	34	(23)	15	(10)
46～50	7	(4)	19	(13)	26	(18)
51～55	1	(—)	13	(9)	14	(10)
56～60	1	(—)	8	(6)	6	(4)
合計	182	(100)	146	(100)	144	(100)

（本務教員）

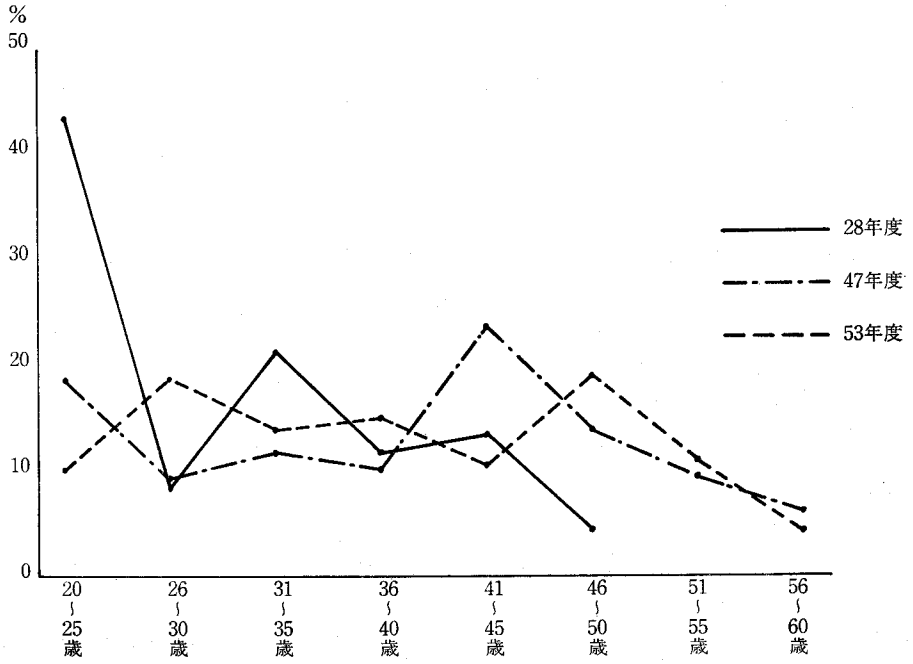


図 II-1　家庭科教員の年齢構成の推移

で占められており，教諭以外に助教諭，講師の数もかなり多く，年齢別では20歳から25歳が43%と集中しているのが特徴である。専門学校卒業年齢は19歳～20歳。短大卒業年齢は20歳が多いことから戦後集中して若手卒業生が採用されたことによる若年構成となっている。46歳から50歳はわずかに4%で51歳以上はひとりもいない。昭和28年度から約20年を経過した昭和47年度は41歳から45歳が23%を占めて最も高い率となっているが，昭和28年度の20歳から25歳代の教員構成の43%と比べてみると20年を経過した後の23%は低く，途中退職その他の移動があったことがうかがわれる。次いで20歳から25歳が18%と高く，次

表 II-12 小・中・高校教員平均年齢

区分	昭和46年10月1日現在		昭和50年5月1日現在	
	男	女	男	女
小	41.9	38.8	41.3	41.5
中	38.9	35.4	41.3	37.1
高	36.2	35.9	38.0	33.5

教育情報 No. 409 岩手県教育員会務局総務課　昭 51. 1. 30 発行　(公立)

いで 46 歳から 50 歳が 13% と高い率を示している。昭和 53 年度は 56 歳から 60 歳の 4% を除けば，ほぼ年齢構成は均衡が保たれている。(表 II-12) は小・中・高校教員の平均年齢を示したものであるが，小・中に比べて高校は男女とも年齢が若い。

(付　記)

生徒数，教員数の基礎数は末尾参考文献，家庭科教員数は「高等学校家庭科教育協会」名簿，「高等学校家庭部会」名簿，「学事関係職員録」(岩手教育会館刊) をもとにしてまとめた。従って家庭科教員名簿に掲載されていても本務教員でない場合には数字から除いた。

III. 現　職　教　育

1. 現職教育に関する組織と機関

県教育委員会では新カリキュラムに基づく教育課程研究協議会を昭和 23 年から 25 年にかけて全県下の教員に対して 1/3 ずつ 3 年計画で開催実施した。新体制への適応の試みはこれをもって嚆矢とする。以下当時の研究会等についての概略を述べる。

(1)　岩手県高等学校家庭科教育協会

この組織は昭和 25 年 11 月 19 日から 22 日の 3 日間にわたって開催された高等学校家庭科研究集会 (表 III-1 参照) の際に発会している。全くの自主的研究団体としての性格をもって家庭科担当教員の現職教育推進の中心的役割を果した。発足当時は免許状切替えや教員確保に伴い単位取得を希望する教員が多かったため表 III-1 に示すように年 1 回は岩手大学の公開講座として会員の要望にこたえている。

その後昭和 39 年に岩手県高等学校教育研究会の中に「家庭部会」として編入され，一つの団体（県の協会）に所属するものが全国家庭科教育協会 (略称 Z・K・K) にも一部加入しており，新たに結成された県高校研究会の家庭部会の会員でもあるという二重籍を持つことになった。これは文部省が教育研究会に対して補助金交付を行うことになったことに基づいて県下に設立している各教科ごとの研究会を一本化したものである。この会には高校の教員全員が入会し，年 2 回の研修会，講演会等を行って教育についての共通理解とか教育理念の徹底と研究協議を行って全教員の資質向上と共に意欲の高揚をはかった。

(2)　産業教育振興法に基づく現職教育

ア　内地留学生の派遣—昭和 28 年度から産振法に基づく内地留学生の派遣が実施され高校家庭科関係者としては，当時久慈高校在職の加藤節子教諭が東北大学に留学している。

表 III-1　講習会・研究協議会　（県段階）

年度	名　称	主　催	講　師	開催地・対象・その他
23～25	新制高等学校教育講習会 （3年計画）	県　教　委	御法川　敏 池野のぶ	①水沢・一関　②福岡・盛岡　③花巻・釜石・宮古の3地区 全職員の1/3を対象にする
24	中等教育研究集会	県　教　委	県教委指導部及び教育研究所員	杜陵高校　中・高 113名（内高校56名）
25	高等学校家庭科研究集会	県教委・岩手大学	文部省（守屋百合子）　岩手大学（鷹觜テル，安倍キミ）　県教科指導員（清水　房）	胆澤高校家庭科担当教員32名，分科会　①H.P（ホームプロジェクト）　②H.C（学校家庭クラブ）　③食物　④住居
26	同　上	同　上	文部省（山本キク）岩手大学・県教委	福岡高校　家庭科担当教員49名
30	高等学校家庭科研究協議会	県　教　委		杜陵高校　(1)家庭一般の内容と履修方法について (2)教育課程改訂に伴う家庭科教育の問題点
31	家庭科教育講習会 同上伝講	県教委・協　会 〃	中央講師2名　地方講師2名 県教委指導主事	盛岡農業高校　被服構成学その他
32	家庭科教育講習会 同上伝講	県教委・協　会 〃	盛岡短期大　小林美代 日本女子大　宇川和子 岩手医大　根本四郎	盛岡二高　(1)高校食物教育に必要な理論と実習 (2)家庭経営講習会 花巻南高校
33	①高等学校家庭科地区代表者会議 ②高等学校における女子職業教育振興協議会 ③高等学校家庭科研究協議会 ④定時制家庭科研究協議会 ⑤高等学校家庭課程運営協議会	県教委・協　会 県　教　委 県教委・協　会 県教委・協　会 県　教　委		杜陵高校　7地区から各代表1名 普通課程をおく高等学校長37名　於西鉛 全県高校家庭科担当教員　黒南 定時制　〃　〃　川尻分校 家庭課程をおく高校長並びに家庭科担当教員24名　於水沢農
35	家庭科講習会 家庭科技術検定研究会	県教委・協　会 県　教　委	労働科学研究所　桐原葆要 化学繊維協会　和田憲夫	盛岡工業高校　県下高校家庭科教員74名「被服経営」 花巻農学高校　校長，担当教員 紫波高校
36	家庭科実験・実習講習会	県教委・協　会	栄養大学教授　上田フサ 産業教育振興会長　雫石隆孝 盛岡市立高校教諭　菊地栄子 指導主事　清水　房	花巻農業高校，県下高校教員63名 「食物と経済」
37	昭和37年度岩手県地区高等学校教育課程研究協議会 沿岸地区 北部・中部地区 南部地区	県教委・協　会	指導主事　清水　房 同　上　清水　房 同　上　清水　房	沿　岸　釜石高等，家庭科　20名 北部・中部　杜陵高校　〃　33名 南　部　一関一高　〃　20名

註）1. 県教委は岩手県教育委員会　　2. 協会は岩手県高等学校家庭科教育協会

表 III-2　産業教育関係（家庭科）現職教育の一覧

(1) 全国産業教育指導者養成講座				(2) 岩手県産業教育実験・実習講座			(3) 産業教育実技中央講習会		
年度	内容	参加校等	数	期日	内容	参加教員数	会場	内容	参加校
32	食物	県教育委員会	(2)						
33	被服	県教育委員会	(2)						
34	保育	水沢農業高校	(2)						
35	被服	花巻南高等学校	(2)						
36	家庭一般・被・経営	県教育委員会・花巻南高	(2)						
37	保育	水沢農業高校	(2)				文化服装学院	被服(型紙)	黒沢尻工業高校
38	食物	広田水産高校 沼宮内高校	(2)				味の素株式会社	食物	紫波高校
39	保育	盛岡第四高校 県教育委員会	(2)	8/ 4～8/ 8	繊維・化学工業製品実験・実習	商業・家庭計 30名			(不参加)
40	家庭科教育法	紫波高校 盛岡第二高校	(2)	8/ 3～8/ 7	食物の機器分析 食品衛生	14名			
41	家庭科教育法	花巻農業高校 釜石南高校	(2)	Ⅰ 1/10～1/14 Ⅱ 2/ 2～2/ 4	食物の機器分析 小児栄養	28名	ライオン油脂 K.K.	被服整理	専大北上高校
42	住居	平館高校 一関第二高校	(2)	7/31～8/ 4	住居	15名	味の素 K.K. 蛇の目ミシン K.K.	食物 被服	教育センター 水沢農業高校
43	家庭科教育法	宮古商業高校 一関農業高校	(2)	7/30～8/ 3	保育	19名	味の素 K.K.	食物	教育センター 久慈農林高校
44	生活設計	花巻農業高校 江刺高校	(2)	7/22～7/26	視聴覚教材	20名	ライオン油脂 K.K.	被服	平館高校
45	「家庭一般」被・食	久慈農林高校 岩谷堂農林高校 教育センター	(3)	7/21～7/25	視聴覚教材	20名	蛇の目ミシン K.K. 味の素 K.K.	被服 食物	紫波高校 広田水産高校
46	家庭科教育法	平館高校 黒沢尻南高校	(2)	7/19～7/22	消費者教育	15名			(不参加)
47	保育	一関第二高校	(1)	7/24～7/28	被服	13名	伊勢丹食品	食物	岩谷堂農林高校
48	被服	花泉高等学校 千厩高等学校	(2)	7/24～7/28	調理実習	18名	伊勢丹プチモンド	被服	遠野農業高校
49	栄養，食品・調理		(2)		実習教材資料作成	13名	味の素 K.K.，蛇の目ミシン，伊勢丹	被服・食物	3名
50	家庭経営		(2)		電算機実習	10名	日本きものコンサルタント協会	被服	1名
51	保育・家庭		(2)		被服構成	16名			(不参加)
52	被服		(2)			19名			

註 (1) は文部省主催に県から派遣した。　注 (2) は県単事業として行った。　注 (3) は産業教育振興会の事業として実施した。

イ　産業教育指導者養成講座―昭和31年度から全国的規模で実施された事業で本県からは，指導主事や家庭科担当教員の代表が参加し6日間にわたって専門的分野の研修を受け帰校後は県段階の講師となって，必ず伝達講習を行い一般への普及徹底を図った（表 III-2(1)）。

ウ　実験実習講座―昭和38年度から学年進行をもって実施されている高等学校教育課程の効果的な指導と，技術革新に即応した近代的な教育を行うため県教委主催による産業教育関係教員の現職教育として実施され，家庭科関係の講座は昭和39年度から行われた（表 III-2(2)）。

(3)　全国高等学校長協会家庭部会

校長協会の事業の一つとして，家庭科教育に含まれる技術（主として被服・食物に関するものが中心）を社会的な職業資格として認めさせる意図で昭和35年度から全国的規模で実施されるようになったのが，全国高等学校家庭科技術検定である。この事業に伴う実施方法や評価の方法について中央研修会が行われ県の評価委員被服と食物から各2名が参加して研修し，帰校後全県対象の伝達講習を開いて主旨の徹底を図った。当初は家政科・生活科の教員が多く参加したが逐次普通科にも波及し3級，4級実施のため研修が行われた。

(4)　岩手県立教育センターの設立の背景

終戦後の日本国内事情が変動してゆくにつれて教育内容も次第に改訂せざるを得ない状態に迫られてきた。終戦直後のアメリカ直輸入のカリキュラムは次第に日本の国内の実態に調和しにくい面が現われるようになってきた。週休2日制とか，サマー・タイム実施とか，体験学習等々…実施はしてみたが長つづきする筈もなく，カリキュラムの改訂はしばしば行われた。

付設中学から新制高校へ（昭和22年～23年）一般家庭7・7時代（昭和24年～26年）さらに昭和26年の改訂を経て昭和31年度から「家庭一般」4単位の時代へと改訂を重ねていった。このように絶えず変転してゆく中で，1957年（昭和32年）10月4日ソビエトによるスプートニク第一号打揚げの成功は世界を震憾させた。これを機にして世界の主要国は一斉に教育課程の検討，改訂を加えたと言われる。日本では1960年（昭和35年）池田勇人内閣成立と共に，国民所得培増計画を決定し，産業構造の枠組が農業から工業へと移行しつつ，工業を軸として大きく回転しはじめていった。産業構造の変貌は社会感覚に鋭敏な産業教育に影響しない筈がない。果せるかな昭和37年度からは中学校の「職業・家庭」が「技術・家庭」と名称はじめ教育内容が今までとは別の発想によって大きく改訂され変っていったのである。要約するならば，農業的風土に基礎を据えたこの教科が，工業的な国内産業の基礎としての工業的な技術教育を意図したものに変化しはじめたのである。最近の日本の工業生産の目ざましい発展の素地はこの頃から培かわれはじめたと言ってよい。このような社会的背景があって，職業科や家庭科教員の現職教育の必要性がとみに高まり，技術教育や科学教育推進のセンター的役割を果たす機関の設立へと拍車をかけることになったと思われる。

2.　昭和38年度以降の現職教育

(1)　岩手県高等学校教育課程研究集会（家庭科）

昭和38年の新指導要領による教育課程研究集会実施は現場の研究体制を正常に推進するために実にタイムリーであった。

敗戦の責任追求は文部省の指示する教育内容に対する厳しい批判となって，現場の教師から文部省不信の声がおき，教員組合主催の教育研究集会が盛んに行われた。その中で家庭科教育は特に活発に行われ，岩手県の小・中学校の研究の積み重ねは中央の家庭部会においても注目

を浴びるほど質の高いものであったようである。筆者は高等学校在職中にオブザーバーとして傍聴する機会を得たことがあるが，その中で感得した点は次のような考え方ではなかったかと思う。「家庭科教育は労働力の再生産の場として認識させる。認識を育てる手だてとして何を教材にえらび，それを通して何を識るように指導したらよいか。日常の生活の中から矛盾を発見させ，その矛盾の解決方法について考えさせる。」という風に要約できるのではなかったかと思う。これは中央（東京会場）の研究集会の発言にとどまらず岩手県の小・中学校の教師達の間に浸透してゆくが，末端までゆくと今までの家庭科教育の内容の攻撃で終止し，矛盾発見ばかりがこの教育目的のように思いこんでしまう傾向を持つようになってきた。中には小学校の家庭科教材の「ごはんづくり」はもう家庭で母親が毎日やってるから学校でする必要がない，とか「みそ汁のつくり方」では味噌を食品成分表でみると蛋白質などほんの少ししか含有してないから教える価値がない。」等々，論議が果てしなくつづく。又一方では教科論からの発想で「学校の教科は原理原則を認識させるものでなければならぬ。具体的な『ごはんの炊き方』を教えるよりも，もっと抽象化して『澱粉の糊化現象』を観察理解させるだけでよい』などとエスカレートしてくる。こうなるとこれは理科でもやるから等家庭科教育不要論まで出てきて，日教組のカリキュラム自主編成をかくれ蓑にして県教委の指導を拒否し，その実は何も研究をしない傾向の出てくるのには驚ろかされていた。こういう…研究思想が蔓延しては大変だと心配した頃文部省主催の教育課程研究集会が昭和38年に発足したのである。

文部省から示めされた全国共通問題[24]と県独自の研究問題について県では研究の手引書を作成，配布して，各地区，学校単位で研究するように体制固めをして研究に取り組んだ。

全国共通テーマは「家庭一般」の内容についての研究で，改訂された教育内容の一番重要な問題としては，今までの衣・食・住，ではなくて，衣生活の経営，食生活の経営，住生活の経営など経営の立場から総合的に指導する趣旨のもとに設定された課題であった。家庭科の科目として一番最初に履修する基礎として普通科，家政科，生活科等どの学科でも共通に理解したそのうえで衣・食・住・保育を課するという新しい発想に基づくものであった。以下岩手県独自の研究テーマをまとめると次の如くになる。

高等学校教育課程研究問題[25]（岩手県）

38年度～39年度　「家庭一般」において食生活の経営と衣生活の経営の実習教材を理論と密接な関連をもたせて指導するにはどのように指導すればよいか

40年度　「家庭一般」の学習を効果的にするためには，各領域の内容を家庭経営の立場でどのように位置づけ，どのように指導すればよいか

41年度　「被服 I」「被服 II」「食物 I」「食物 II」「保育」および「家庭経営」の指導を効果的にするにはどのような内容をどのように指導すればよいか

42年度　「家庭一般」におけるホームプロジェクトの指導をどのようにしたらよいか

43年度　「食物 I」の効果的な指導はどのようにすればよいか
　　全国発表　釜石北高等学校

44年度　「家庭一般」における指導効果を高めるために視聴覚教材をどのように活用したらよいか
　　全国発表　千厩高校

45年度～46年度　「家庭一般」における指導計画の改善と効果的な指導の方法はどのようにしたらよいか

24）家庭部会が中心になって作成。
25）「岩手県産業教育90年史」p. 65.

47年度　「家庭一般」における指導を家庭経営の立場からとらえ，生活の実践に結びついた効果的な指導法を研究する
48年度　改訂された家庭の目標を達成するためには教育課程の編成や各科目の指導計画の作成，学習指導のあり方などどのようにしたらよいか
49年度　「保育」に関する指導はどのような内容をどのように指導すればよいか
50年度　食物に関する指導はどのような内容をどのように指導すればよいか

(2)　岩手県立教育センターの設立及び現職教育

発想の初めは中学校「技術・家庭」教育の場の必要ということで発足した。当時の産業教育審議会委員が県議会に熱心に働きかけをし教育長も又熱心に支持して下さり，全国で最初の設立の運びとなったことは県としてひそかな誇りであった。又中学校の現場の教員代表が集って

表 III-3　高等学校家庭科実技研修講座
〔一　般　研　修〕(1)　　於　教育センター

年度	日程	内容	参加人員
昭和四十二年度	10月2日	食酢中の酢酸定量 みそ・しょうゆ・漬物の食塩定量 ぶどう・みかん還元糖の定量	
	10月3日	牛乳の成分の分離 牛乳成分の栄養素の確認 ビタミンCの測定	
	10月4日	身体計測の理論と実際 被服材料の基礎実験 袖山のいせこみ分量の研究	
	10月5日	同　上 各実験のまとめと批判	
	10月6日	家庭科のプロジェクト学習について	12名
昭和四十三年度	Aコース 6月10日 〜 6月15日	裁縫ミシンの原理と取扱いについて	
		住宅の保繕と管理 調理実験を生かした調理指導 食酢の酢酸，みその塩分の定量	
	Bコース 11月11日 〜 11月16日	栄養の諸問題について 油脂の化学について 揚げものの適温についての実験	
	Cコース 1月30日 〜 2月1日	身体計測の理論と実際 被服構成の基本 被服材料の物性試験 袖山のいせこみの研究	
		繊維の鑑別実験と標本作製 洗剤溶液の性質に関する実験と洗浄 染色に関する実験 実験の考察と応用について	Aコース　12名 Bコース　13名 Cコース　31名 合　計　56名
		実庭科教育の諸問題と学習指導法	

〔一　般　研　修〕(2)

年度	日・人数	A 食物コース	B 被服コース
昭和四十四年度	Aコース 7月2日 〜 7月5日 Bコース 7月23日 〜 7月26日 Aコース 12名 Bコース 12名	• 家庭経済に関する講演	• 「家庭一般」の衣生活経営の取扱いについて
		• 「家庭一般」の食物経営の取扱いについて • 調味の基本についての実験 • 蛋白質源食品に関する実験 • 食品の含有色素に関する実験 • 炭水化物源食品に関する実験 • 塩の浸透による野菜の放水実験	• 被服材料とその性能について • 被服管理の諸問題 洗剤　洗浄　仕上げ　その他
		• 食品の水素イオン指数の測定 • 揚げものに関する実験	• 被服構成の基本 採寸　型紙補正と仮縫 • 被服製作 ブラウス　スカート
		• 「家庭一般」に関する諸問題について	• 住宅の計画
昭和四十五年度	Aコース 7月12日 〜 7月15日 Bコース 8月5日 〜 8月8日 Aコース 11名 Bコース 12名	• 家庭経済に関する講演	• 衣生活経営の指導について
		• 「家庭一般」の食生活経営の取扱いについて • 蛋白質源食品に関する実験 • 食品の含有色素に関する実験 • 調理によるビタミンCの変化の測定 • でんぷんの α 化度の測定 • 食品の水素イオン指数の測定	• 被服材料について • 被服材料に関する諸実験 溶解　燃焼　呈色等の試験 織物の糸密度　剛軟度　摩耗 強度等の測定
		• 食品衛生に関する諸問題 • 食品の添加色素の検出 • 防腐剤・漂白剤の検出 • 住居に関する諸問題 • 建築材料について	• 被服構成の基本 採寸　型紙の補正　仮縫い • 製作実習 ブラウス　スカートの部分縫い
		• 家庭科の諸問題について • 教育懇談	• 住居に関する諸問題 • 教育懇談
昭和十六年四	記　録　不　明		
昭和四十七年度	Aコース 8月30日 〜 9月2日 Bコース 7月26日 〜 7月29日 Aコース 11生 Bコース 12名	• 生活設計について	生活設計について
		• 油脂の化学について • 油脂の変敗度の測定 酸化価　過酸化物価など • ビタミンCの定量実験 • 食品添加物の検出 (薄層クロマトグラフィーによる) • 食品の鑑別実験 魚　牛乳の鮮度　砂糖　食酢　その他	• 色彩の基本について • クロッキーとスタイル画の書き方その演習 • 織物組織について • 織物の物性に関する実験 引張り強度試験　引裂き試験 摩耗強度　ピリング他
		• 小・中・高一貫性のある食物学習について • 教育原理	• 織物の物性に関する実験のまとめ • 職場倫理
昭和	Aコース 10日30日 〜	• 生活設計について • 食物学習について	• 現代の衣生活を考える
		• でんぷんの顕微鏡標本の作り方	• 色彩の基本について

〔一　般　研　修〕(3)

年度	日・人数	A 食物コース	B 被服コース
四十八年度	11月2日 Bコース	• 会席料理の献立実習	• クロッキーとスタイル画の描き方とその演習
	6月27日 〜 6月30日 Aコース 29名	• 食品添加物の実験 { 試薬の調整 { 実験方法 • プラスチック食器のフオルマリンの定性実験	• ブラウスとスカートの補正 (1) 型紙の補正 (2) 仮縫の補正
	Bコース 11名	• 家庭科教育の諸問題 • 教職教養	• 家庭科教育の諸問題 • 教職教養
昭和四十九年度	Aコース 6月19日 〜 6月22日 Bコース 11月13日 〜 11月16日 Aコース 12名	• たんぱく質の栄養について • 現代の食生活の問題点 • 試薬の調整 • 日常食品の鑑別 • 食品添加物の実験	• 被服学習についての協議 • 繊維と繊維製品の現状 • 被服材料に関する実験 • 繊維の鑑別と摩耗度テスト
		• 客膳料理の献立作製および調整 • イタリヤの食生活について • 食物学習についての研究討議	• 大裁女物あわせ長着と羽織の部分縫
	Bコース 7名	• 庖丁の手入れについて • 教職教養	• 生活構造の中における衣生活の役割 • 教職教養
昭和五十年度	Aコース 10月6日 〜 10月9日 Bコース 7月30日 〜 8月2日 Aコース 11名 Bコース 12名	• 岩手県における食習俗の食物史的考察 • 貧血と栄養について	• 裁縫ミシンの調整
		• 病態栄養について • 病人食の献立作成と調理実習	• 女物あわせ羽織の製作
		• 試薬の調整 • 日常食品の鑑別 • 食品添加物の検出	• 女物あわせ羽織の製作
		• 研究協議「食品の調理上の性質と授業への取りあげ方」 • 教職教養	• 研究協議「被服材料に関する実験」 • 実習の取りあげ方 • 教職教養
昭和五十一年度	Aコース 6月23日 〜 6月26日 Bコース 8月18日 〜 8月21日 Aコース 13名 Bコース 12名	• 調理によるたんぱく質の変性実験 • 加熱による変性（鶏卵，牛乳，豆乳） 〃　（小麦粉，いか，牛乳） • 酸による牛乳の変性	• 被服関係機器の取り扱いと資料作製
		• イタリヤ料理（パスタの基本と応用調理）	• ペストの製作
		• 圧力なべによる調理	• ペストの製作
		• 食物学習指導上の問題点についての研究協議 • 教職教養	• 被服学習指導の問題点に関する研究協議 • 教職教養
昭和	Aコース 11月9日 〜 11月12日	• 調理によるたん白質の変性実験 加熱による変性（鶏卵，牛乳，小麦粉，いか，牛肉）	• 高等学校家庭科における被服指導について
	Bコース	• 酸による変性（牛乳）	• 服飾デディンについて

〔一　般　研　修〕(4)

年度	日・人数	A 食物コース	B 被服コース
五十二年度	10月12日〜10月15日 Aコース 12名 Bコース 12名	• 最近の病態栄養学の方向について	• 新しい被服材料の扱い方
		• 食物学習指導上の問題点について研究協議 • 教職教養	• 被服学習指導上の問題点について研究協議 • 教職教養
昭和五十三年度	Aコース 11月15日〜11月18日	• 指導計画の立て方	• 高等学校家庭科における被服の指導について
	Bコース 10月18日〜10月21日	• 調理実験に必要な基礎的な知識・操作 • 食品の調理性に関する実験	• 布地の性能試験 • 被服整理（漂白，のりつけに関する実験）
	Aコース 12名	• アミラーゼに関する実験 • 食物の学習指導上の問題点について	• 和服地の新素材と扱い方 • 和服の着装について
	Bコース 12名	• 油脂の変敗に関する検査 • 教職教養	• 被服の学習指導上の問題点について • 教職教養

〔公　開　講　座〕
昭和 51 年度より実施

年度	日・人数	内　　容
昭和五十一年度	8月10日〜8月11日 7名	• 食品の調理による色の変化についての実験 • 食品中のビタミンCに関する実験 • 日常食品の鑑別 • 食品添加物の検出
昭和五十三年度	8月2日〜8月3日 3名	• 試薬の調整法 • 食品添加物の鑑別 • 調理における吸水，脱水 • 水による水溶成分の移動
昭和五十三年度	8月17日〜8月18日 6名	• 人工消化液による消化実験 • 食塩濃度の測定 • 写真法による T.P の製作

〔教職経験者研修講座〕
昭和 52 年度より実施

年度	日・人数	内　　容
昭和五十二年度	10月17日〜10月22日 1名	• 教育課程の編成と展開 • 学習指導の原理と方法 • 教育評価の理論と方法 • 被服に関する教材研究(実験・実習) • 食物に関する教材研究(実験・実習) • 学習指導案作成及び評価問題作成 • 作成した学習指導案・評価問題の研究協議 • 教育相談の進め方
昭和五十三年度	9月5日〜9月9日 2名	• 教育課程の編成と展開 • 教育評価の理論と方法 • 学習意欲と評価について • 教育調査のしかたと処理について • 食品の調理に関する実験 • 被服材料・縫製に関する実験 • 高等学校家庭科の指導について • 生徒指導

(教職6年目の教員を対象)

熱心に具体的な準備計画にあたり高校側からも家庭科室の設立に関して1名が参画した。ところが実際に設計図が出来上ったのをみると家庭科研究室は皆無であった。せめて被服・食物の二部屋はあるだろうと信じて疑わなかったにもかかわらず男子向きの研究室・準備室のみであったのでここで黙っていては永久に家庭科研究室は獲得できなくなるかも知れないと思いその旨を述べて現在の40坪程の部屋は理想像からははるかに遠いけれどもこのような経緯で誕生した。備品等については大学の設備，衣類整理等はライオン油脂家庭科学研究所等の設備を参考に計画した。現職教育については多方面にわたって行われたが高校家庭科教育のみ記す（表III-3）。

おわりに

今回の3つの視点は，いわば教科教育推進の原動力的事項で，中でも人的問題はその量と質両面について充実発展が望まれるところである。また，実験実習が生命である教科にとっては，施設設備が教科内容を規制する重要な意味を持っている。この小論が，それ等の史的実態をいくらかでも明らかにし，今後の進展に役立つことを念願するものである。

執筆の段階では施設設備を清水が，担当教員を大森が，現職教育を工藤がそれぞれ分担したが，不充分な点が多々あることと思うので関係各位からの御批正をお願いしたい。また，資料提供について快く御協力いたゞいた岩手県教育委員会事務局関係者，岩手県教職員組合関係者，家庭科担当の現旧職員各位に心から感謝の意を捧げかく筆する。

次報は，学校家庭クラブと技術検定の変遷について考察を進める予定である。

参考文献

産業教育施設設備便覧　文部省職業教育課監修　社団法人雇用問題研究会　昭和53年9月発行.
高等学校における産業教育実習施設・設備の基準（中央産業教育審議会答申）およびその解説　文部省初等中等教育局職業教育調監修　昭和39年3月25日.
教育年報　岩手県教育委員会刊
学校一覧　岩手県教育委員会刊
岩手県学事関係職員録　岩手県教育会館発行
産業教育（月刊誌）第25巻・第1号
岩手大学教育学部研究年報　第37巻（1977）
岩手大学教育学部研究年報　第38巻（1978）